

大東市埋蔵文化財調査報告第25集

中 垣 内 遺 跡

—関西電力株式会社架空送電線鉄塔〔No.256〕建替えに伴う発掘調査—

2006年3月

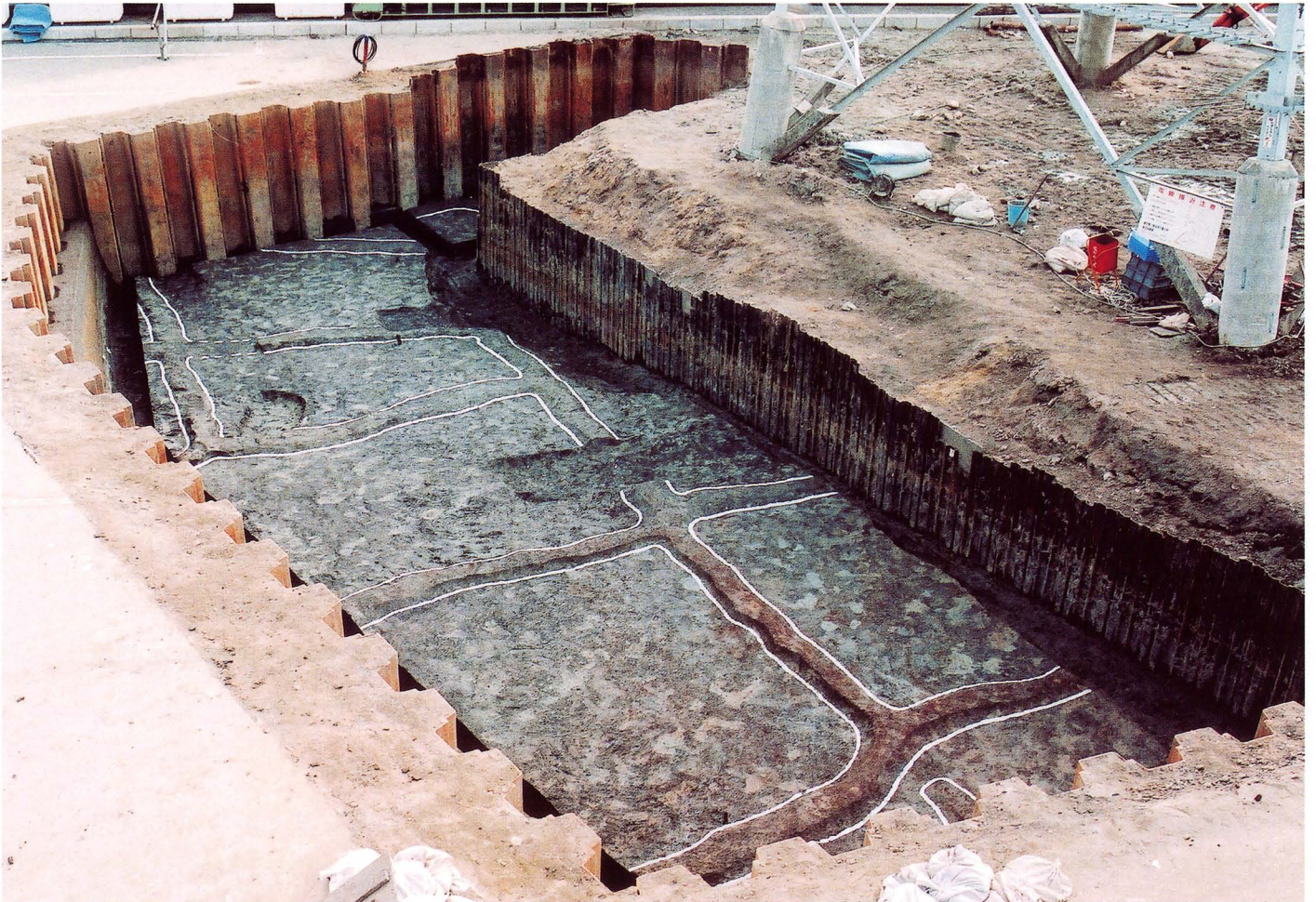
大東市教育委員会

中 垣 内 遺 跡

—関西電力株式会社架空送電線鉄塔〔No.256〕建替えに伴う発掘調査—

2006年3月

大東市教育委員会



1. C区 水田跡 (第4遺構面)



2. C区 NR-C501 (北より)

序 文

大阪府の北東部に位置する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部では古くは河内湾、河内湖、また江戸時代の中頃までは深野池という大きな池があり、山と海に彩られた多様な地形環境のなかで古来より豊かな自然を有していました。

そのような環境のなかで先人は個性ある歴史、また豊かな文化を育んできました。そして、その名残である遺跡、石造物、古文書など、いわゆる文化財も数多く残されています。

この度、報告することになりました中垣内遺跡は昭和34年以来、数十回にわたって調査が実施されてきて、遺跡の様相については多くのことが明らかにされてきました。

今回の発掘調査につきましても縄文～近世に至る実態を明らかにすることができ、中垣内遺跡の歴史的価値をあらためて確認するとともに、大東市の歴史・文化を語るうえで、たいへん貴重な成果を得ることができたと思われまます。

今後、これらの成果を市民共有の財産として活用していくと共に、本報告書が本市の歴史や文化を知る基礎資料として活用され、歴史や文化財に対する理解を深めるための契機となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査および整理作業の費用負担をはじめ多大なご協力を賜りました関西電力株式会社をはじめ、お世話になりました関係機関・各位に厚くお礼申し上げます。

また教育委員会では、今後とも先人より受け継いできました貴重な文化財を大切に保存し、未来を担う次世代に託したく努力する所存でありますので、市民の皆様方におかれましては今後とも本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成18年3月

大東市教育委員会
教育長 中 口 馨

例 言

1. 本書は、大阪府大東市中垣内4丁目における中垣内遺跡発掘調査（NGT96—1）の報告書である。
2. 調査は架空送電線鉄塔（No.256）建替に伴うもので、関西電力株式会社大阪南支店より依頼を受け、大東市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査及び整理作業は大東市立歴史民俗資料館、中逵健一が担当した。
4. 調査面積はA区36.2㎡、B区37.2㎡、C区118.39㎡、合計191.79㎡で、調査期間は平成8年9月25日～平成9年2月25日である。
5. 本調査に係る費用については関西電力株式会社大阪南支店がこれを負担した。記して感謝の意を表す。
6. 現地調査、整理作業にあたっては下記の諸氏の協力を得た。（敬称略、五十音順）
[現地調査]
大谷聡、甲斐範浩、谷崎光子、樋口里美、森石千枝子、吉野正泰
[整理作業]
大谷聡、甲斐範浩、谷崎光子、樋口里美、宮田八重子、村尾奈津子、森石千枝子、吉野正泰
8. 本調査における基準点、水準点測量はワールド航測コンサルタント株式会社（現株式会社ワールド）に委託した。
9. 本調査で使用した座標は国土座標第Ⅵ系であり、方位は座標北を使用している。また、標高は東京湾標準潮位である。尚、国土座標の数値については日本測地系での表示である。
10. 報告書作成に係る一部図面作成、遺物観察表、遺物写真撮影を、大東市教育委員会の指導のもと、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
11. 本書の執筆、編集は中逵が行った。
12. 本調査に関わる遺物、実測図、写真、カラスライド等は大東市立歴史民俗資料館において保管している。広く利用されることを希望する。

本文目次

序文

例言

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 調査の方法	6
第4章 調査成果	8
第1節 基本層序	8
第2節 第1遺構面	13
第3節 第2遺構面	18
第4節 第3遺構面	22
第5節 第4遺構面	29
第6節 第5遺構面	33
第5章 まとめ	38

挿図目次

第1図 調査地位置図	2
第2図 大東市位置図	3
第3図 周辺遺跡分布図	5
第4図 調査区区割図	6
第5図 A区調査区北壁断面図	9
第6図 B区調査区北壁断面図	9
第7図 C区調査区北壁断面図	10
第8図 C区調査区東壁断面図	10
第9図 包含層等出土遺物(1)	11
第10図 包含層等出土遺物(2)	12
第11図 第1遺構面全体図	15~16
第12図 第1遺構面各遺構平・断面図	17
第13図 第1遺構面出土遺物	17
第14図 第2遺構面全体図	19~20
第15図 第2遺構面各遺構断面図	21
第16図 第2遺構面出土遺物	21
第17図 第3遺構面全体図	23~24
第18図 第3遺構面各遺構断面図	27
第19図 S D—C 301平・断・遺物出土状況図	28
第20図 S K—C 302平・断・遺物出土状況図	28

第21図	第3遺構面出土遺物	28
第22図	第4遺構面全体図	31~32
第23図	包含層(第5遺構面直上)遺物出土状況図	33
第24図	SK-C501平・断・遺物出土状況図	33
第25図	第5遺構面全体図	35~36
第26図	第5遺構面各遺構断面図	37
第27図	第5遺構面出土遺物	37

表 目 次

第1表	出土遺物一覧表	39
-----	---------	----

写真図版目次

巻頭カラー図版1

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. C区水田跡(第4遺構面) | 2. C区NR-501(北より) |
|-----------------|------------------|

図版1 遺構(1)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. A区第1遺構面全景(北より) | 2. B区第1遺構面全景(西より) |
|-------------------|-------------------|

図版2 遺構(2)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. C区第1遺構面全景(北より) | 2. C区SD-C101(北より) |
|-------------------|-------------------|

図版3 遺構(3)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. A区第2遺構面全景(北より) | 2. C区第2遺構面全景(北より) |
|-------------------|-------------------|

図版4 遺構(4)

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 1. C区SD-C204・C205・C206(南より) | 2. A区第3遺構面全景(北より) |
|-----------------------------|-------------------|

図版5 遺構(5)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. B区第3遺構面全景(北より) | 2. C区第3遺構面全景(北より) |
|-------------------|-------------------|

図版6 遺構(6)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. C区SK-C302(東より) | 2. C区SK-C302遺物出土状況 |
|-------------------|--------------------|

図版7 遺構(7)

- | | |
|--------------------|------------|
| 1. C区SD-C301遺物出土状況 | 2. 同上(北より) |
|--------------------|------------|

図版8 遺構(8)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. C区第4遺構面全景(北より) | 2. C区水田跡(南より) |
|-------------------|---------------|

図版9 遺構(9)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. C区水田跡(東より) | 2. C区水田跡水口(東より) |
|---------------|-----------------|

図版10 遺構(10)

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. C区第V層遺物出土状況(南東より) | 2. A区SX-A401 |
|----------------------|--------------|

図版11 遺構(11)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. A区SX-A401断面(北西より) | 2. B区第4遺構面全景(北より) |
|----------------------|-------------------|

図版12 遺構(12)

1. C区第5遺構面全景(北より)

2. C区第5遺構面全景(南より)

図版13 遺構(13)

1. C区NR—C501(北より)

2. C区NR—C501断面

図版14 遺構(14)

1. C区SK—C501(北より)

2. C区SK—C501遺物出土状況(北より)

図版15 出土遺物(1)

図版16 出土遺物(2)

図版17 出土遺物(3)

図版18 出土遺物(4)

図版19 出土遺物(5)

図版20 出土遺物(6)

図版21 出土遺物(7)

第1章 調査に至る経緯

中垣内遺跡は昭和34年に関西電力株式会社東大阪変電所建設の際に発見された遺跡である。それに伴う緊急調査が一部実施されており、限られた条件下の調査であったにもかかわらず竪穴住居跡などを検出し、また弥生土器など大量の遺物が出土したことから、当時においては弥生時代の集落遺跡として多大な評価を得た遺跡であった。

その後、長年にわたり発掘調査の機会には恵まれなかったが、昭和62年の大阪産業大学の校舎建設に伴う調査を皮切りに、昭和62～63年にかけては変電所敷地内における4ヶ所の調査など、現在に至るまで昭和34年の調査を含めば、合計13次にわたる調査が実施されている。その結果、遺跡としては集落を中心とした縄文時代から近世に至る複合遺跡との性格を与えられているが、大東市域では現在においても弥生時代を代表する遺跡となっている。

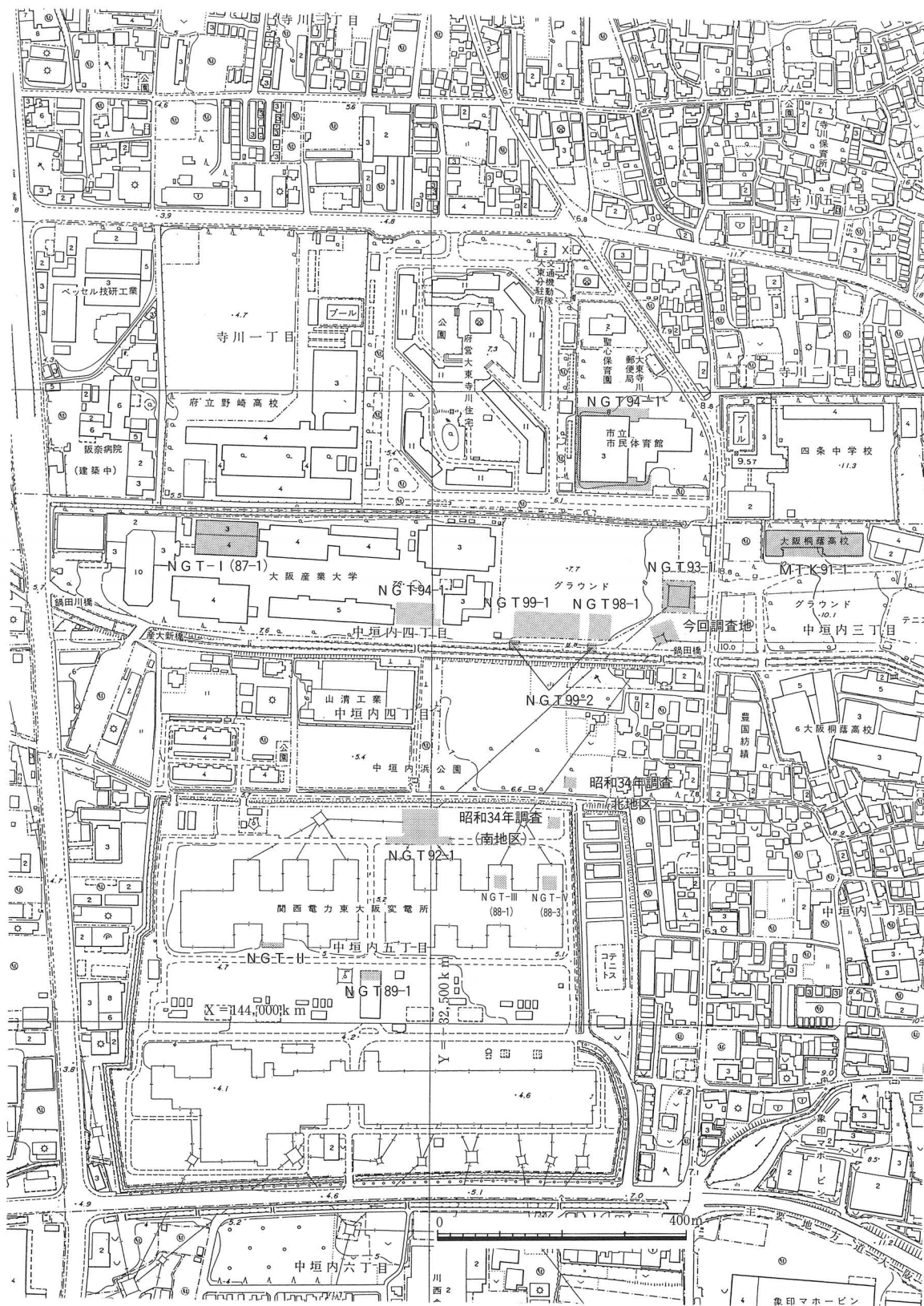
今回の調査は、関西電力株式会社大阪南支店により架空送電線鉄塔の増強工事の事業計画がなされたことによる。この事業計画は電力需要の増加のため、将来において電力供給不足の状態が懸念されることから、東大阪変電所の電力容量を増やすこととなり、そのため一部送電線（多奈二火力線）鉄塔を大型化するために既存の鉄塔を建替えるというものであった。

これらの計画のうち、特に東大阪変電所が中垣内遺跡内に立地することが周知されていたこともあり、関西電力株式会社大阪南支店より本市教育委員会に当該事業における埋蔵文化財の取り扱いについての事前協議の申し入れがあった。

本市教育委員会では、文化財保護法第57条の2に基づく届出の提出を求めるとともに、工事によって遺跡の損壊が想定される場合には工事の設計変更による現状保存または発掘調査が必要である旨を伝えた。

以上の協議を経て、まず当該事業における多奈二火力線No.256号と呼称される鉄塔が対象とされ、平成8年5月15日に本市教育委員会が範囲確認調査を実施したところ、遺物を多量に含んだ包含層を確認するなど遺跡の広がり確認された。その後、遺跡の保存に関して協議を行ったが、事業内容の特殊性もあり計画変更は困難であるとのことから発掘調査を実施することで合意した。

調査は既設鉄塔部分を除いた鉄塔拡幅部分191.79㎡を対象に、平成8年9月25日から開始し、翌年2月25日まで実施した。



第1図 調査地位置図(S=1/5000)

第2章 遺跡の位置と環境

中垣内遺跡は大阪府大東市中垣内一帯にかけて所在し、南北約850m、東西約1kmの範囲を持つと推定されている遺跡である。これまで数次にわたって調査が行われており縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかにされている。特に弥生時代の集落跡としては有名である。

地理的には、鍋田川によって形成された扇状地とその西方に広がる沖積地にかけて立地している。

以下、周辺の遺跡を中心に歴史的推移を概観する。

〈旧石器時代〉

中垣内遺跡からナイフ形石器が出土している。しかし、昭和34年における調査のため、出土状況など詳細は明らかでないが、この時代の遺物としては現在のところ市内唯一のものである。

〈縄文時代〉

集落を示すような具体的な遺構は検出されていないため、様相については明らかではない。唯一、中垣内遺跡で中期後半の土坑状の遺構と推測されるものが確認されているのみである。遺物では、北条遺跡、宮谷古墳群で草創期の有舌尖頭器などが出土・採集している他、土器では包含層等からの出土ではあるが主に扇状地及び周辺の遺跡から早期末～前期初頭の可能性がある土器片から晩期に至るまでほぼ全時期を通して見受けられる。

そして、磨耗を受けず比較的残りの良好な遺物も多いことから丘陵、扇状地などに集落跡の存在した可能性は十分あると考えられる。

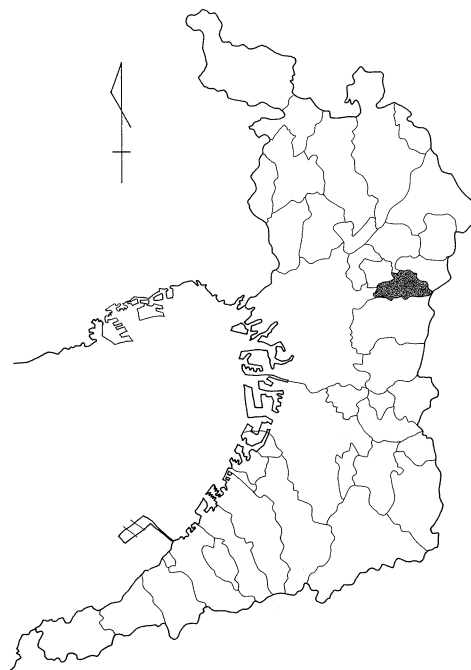
〈弥生時代〉

この時代から市域においても遺構を伴う遺跡が多数確認されるようになる。前～中期の集落跡が確認された中垣内遺跡、北条西遺跡、後期の竪穴住居を検出した北条遺跡などがある。また、中垣内遺跡の東に位置する鍋田川遺跡では後期のまとまった遺物が出土しており、当時の集落の動向を考えるうえでも重要な遺跡であることが明らかになりつつある。

〈古墳時代〉

当時、河内湖東岸に位置していた市域においても多数の集落が営まれるようになり、前期では鍋田川遺跡、中～後期にかけては北新町遺跡、メノコ遺跡などがある。特に特徴的な様相としては初期須恵器、韓式系土器、鳥足文を施した陶質土器の出土など渡来系的な影響の強い遺物が目立ち、先に述べた河内湖東岸という地勢的環境からも頷けるものである。

古墳に関しても多くの古墳、古墳群が周知されているが、残念ながら詳細の解らないものが多い。その中において城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群で古墳の調査が行われている。特に堂山古墳群では三角板皮綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鏃など多量の鉄製武器、武具類が出土していることから当時の有力な首長墓と考えられており、当時の社会を考えるうえで貴重な成果をあげている。



第2図 大東市位置図

〈古代〉

奈良時代では北新町遺跡、寺川遺跡で集落が確認、推測されている。特に北新町遺跡では人面墨書土器が出土し、また寺川遺跡では「白麻呂」と墨書された土器が出土するなど、官衙的集落の存在が推定されている。

平安時代では寺川遺跡で集落跡が確認されている。特に、直径1 m程の木を刳り貫いた井筒などは注目され、また河川跡からはウマの骨が一体復元出来るほどの出土があり、通常の集落とはかなり違う様相を示している。

〈中世〉

北新町遺跡で12～13世紀を中心とした集落跡、御領遺跡で13～14世紀の集落跡が確認されており、市域における中世の様相も明らかにされてきている。また、城跡に関しても、戦国武将、三好長慶の飯盛城、その支城とされる野崎城、キリシタンで有名な三箇サンチヨの三箇城などが知られている。ただ、考古学的には飯盛城において発掘調査がわずかに実施されているのみで残念ながら詳細は明らかにされていない。

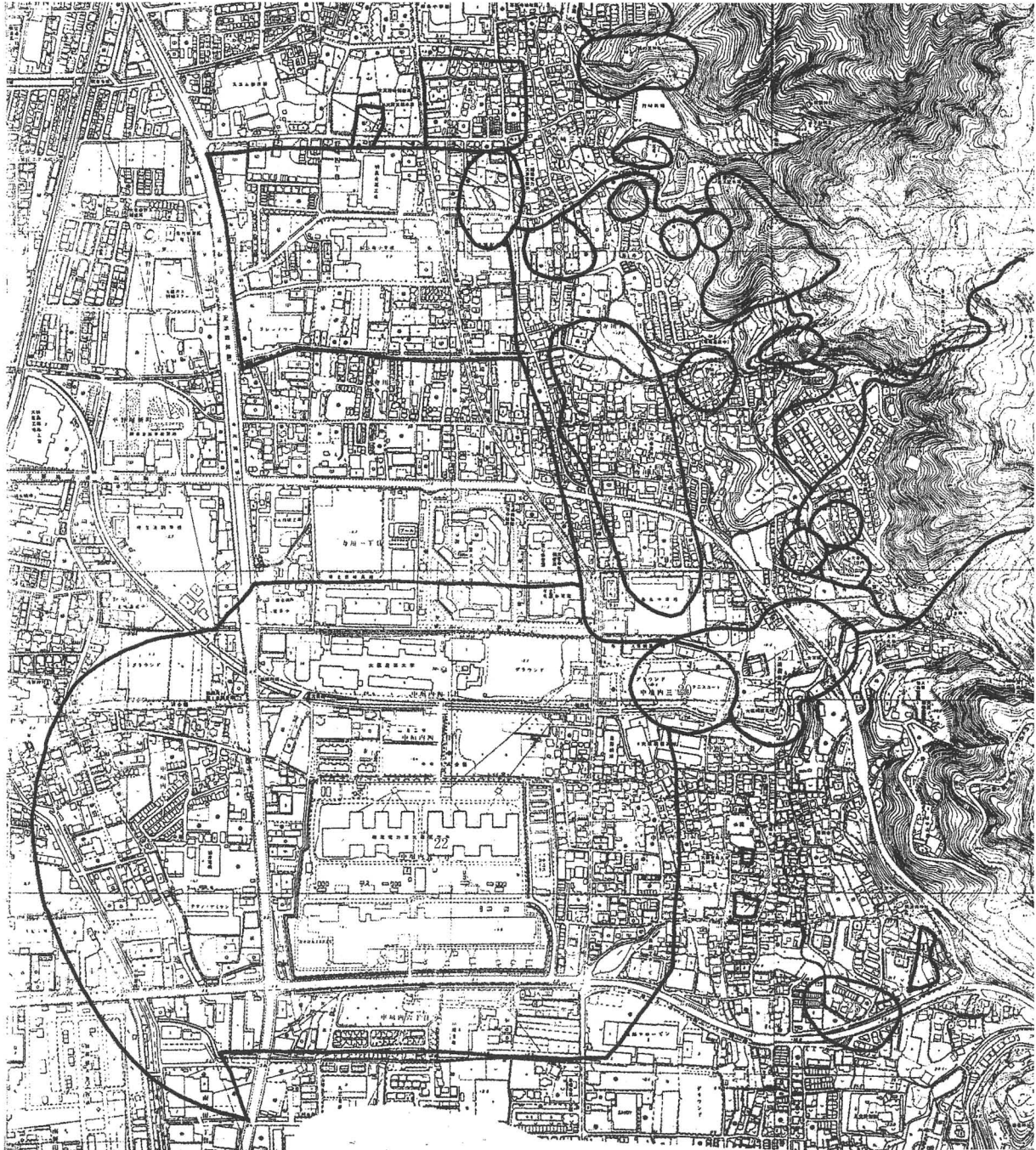
〈近世〉

大阪城の築城、また江戸幕府による再築の際、石垣用石材の供給地であった石切場跡や、宝永元年(1704)の大和川付け替えに伴い新田開発が盛んになるが、その管理施設であった平野屋新田会所などがある。

また西諸福遺跡では深野池、新開池とは別の池と推定される遺構が検出されており、備前播鉢、壺、美濃窯系天目茶碗、胎土目唐津窯系皿、堺播鉢、石臼などの陶磁器類がまとめて出土している。

(引用・参考文献)

- 大阪府史編集専門委員会 1991年 『大阪府史』別巻 大阪府
- 大東市教育委員会 1973年 『大東市史』
- 大東市教育委員会 1987年 『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第1集
- 大東市教育委員会 1989年 『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第3集
- 大東市教育委員会 1990年 『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第6集
- 大東市教育委員会 1997年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集
- 大東市教育委員会 1997年 『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第13集
- 大東市教育委員会 1998年 『メノコ遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第14集
- 大東市教育委員会 1999年 『御領遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第15集
- 大東市教育委員会 2000年 『西諸福遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第17集
- 大東市教育委員会 2004年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第20集
- 大東市教育委員会 2002年 『旧平野屋新田会所屋敷と建物』大東市文化財調査報告書
- 大東市北新町遺跡調査会 1986年 『北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書』
- 大東市北新町遺跡調査会 1991年 『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』
- 大東市北新町遺跡調査会 1997年 『北新町遺跡第3次発掘調査概要報告書』
- 大阪府教育委員会 1993・1994年 『堂山古墳群』大阪府文化財調査報告書第四五輯
- 中達健一 1995年 「大東市・北条西遺跡(93・1次調査)」 『まんだ』第五十六号
- 黒田 淳 1988年 「大東市“宮谷古墳群の調査”」 『まんだ』第三十五号



- | | | | |
|--------------|---------------|-------------|-----------|
| 1 福連寺古墳 | 8 瓦堂遺跡 | 14 寺川古墳群 | 21 鍋田川遺跡 |
| 2 福連寺遺跡 | 9 堂山下古墳 | 15 寺川遺跡 | 22 中垣内遺跡 |
| 3 野崎糸里遺跡 | 10 堂山上遺跡 | 16 城の越上の段古墳 | 23 中垣内東遺跡 |
| 4 寺川浜遺跡 | 11 堂山古墳群 1号墳 | 17 城の越古墳 | 24 若宮東遺跡 |
| 5 メノコ遺跡 | 堂山古墳群 2号墳～8号墳 | 18 大谷神社古墳 | 25 若宮遺跡 |
| 6 峯垣内遺跡 | 12 六地藏古墳 | 19 大谷古墳群 | |
| 7 市水道寺川配水場古墳 | 13 十林寺古墳 | モトコ
元粉遺跡 | |

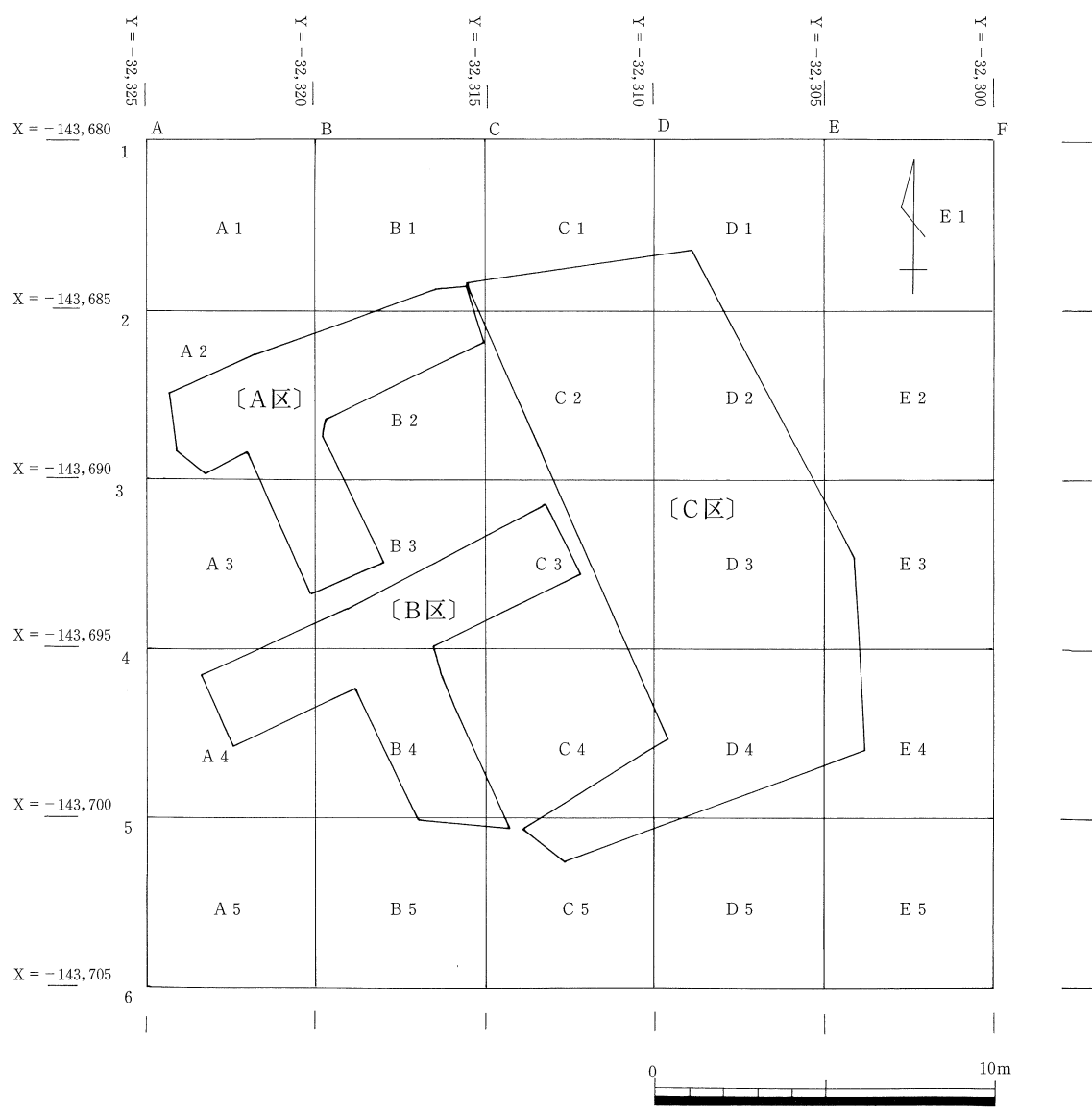
第3図 周辺遺跡分布図 (S=1/10000)

第3章 調査の方法

今回の調査区は既設の鉄塔の撤去と併行して大型の鉄塔を設置する工法によるため、調査時においては既設の鉄塔が残される状況であった。その状況から派生する諸事情のため、鉄塔拡幅部分については3ヶ所に分断されることになり、鉄塔の3ヶ所の部分をそれぞれA区、B区、C区とした。

掘削については、盛土、旧耕作土、床土までを機械掘削の対象とし、以下、包含層については層位ごとに人力による掘削を行った。そして、それぞれの層位面において遺構の確認を行いながら、地山面に至るまで順次繰り返した。

遺構の平面実測については、送電線等が走ることからクレーン、ヘリコプターなどによる空中写真測量は不可能であったため、すべて平板測量で実施した。また必要に応じて遺構平面図・断面図・遺物出土状況図を適宜作成した。



第4図 調査区区割図

調査区の区割り設定については、調査区付近においてA、B、C区をバランスよくカバーできるように考慮しながら任意の地点を決め、それを基点に国土座標第Ⅵ系による座標を使用して調査区全体を東西南北それぞれ5 mごとに座標軸を順次配しながら囲み、調査区内に5 m四方の区画を設定した。各区画の呼称については南北座標軸に西端を起点としてアルファベットを順次付し、また東西座標軸については北端を起点として算用数字を順次付すことにより各交点を記号化し、その北西隅の交点を用いている(第4図)。また、水準についてはT. P.(東京湾標準潮位)を使用している。先に述べた遺物出土状況など各種記録作業、また包含層などの遺物の取り上げについては、すべてこれらの基準に基づいている。また、報告書の記述においても同様である。

遺構番号については調査区毎、および遺構検出面ごとに付与しており、それらの各区名、各遺構面を示す数字は遺構番号の頭に冠している。

写真撮影については6×7の中型カメラによるモノクロ撮影、35mm小型カメラによるモノクロ、カラーそれぞれにおいて撮影を行い、またスライドの作成も行っている

第4章 調査成果

第1節 基本層序

今回の調査ではA区で4面、B区で4面、C区で5面の遺構面を層位的に確認した。基本的な層序については以下の通りである。

[A区]

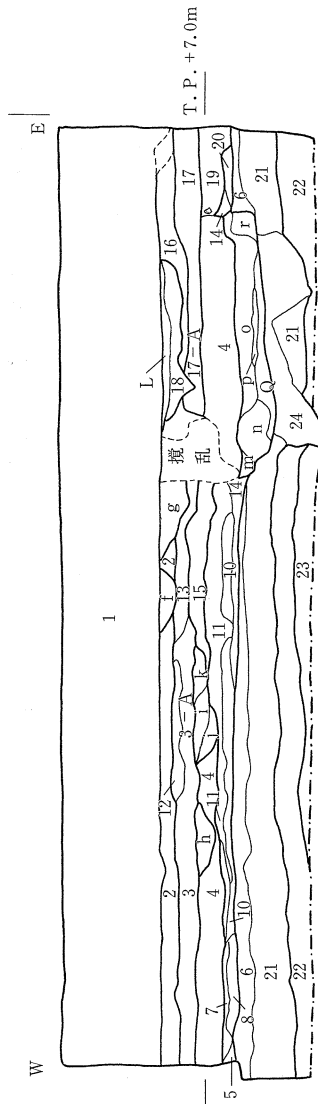
- 第I層 盛土。層厚は約1.0mを測る。
- 第II層 暗緑灰色砂質土。層厚は約0.15～0.3mを測る。第1遺構面のベース層にあたる。
- 第III層 暗緑色粘質土が主体をなす。層厚は約0.2mを測る。
- 第IV層 灰褐色粘質土が主体をなす。層厚は約0.3～0.4mを測る。第2遺構面のベース層にあたる。
- 第V層 灰色砂混じり灰緑色シルト、褐灰色砂と暗褐色土の混合層が主体をなす。層厚は約0.2～0.3mを測る。
- 第VI層 黒色～黒灰色粘土。層厚は約0.3～0.6mを測る。第3遺構面のベース層にあたる。
- 第VII層 礫混じり黒灰色粘質土～粘土。層厚は約0.3mを測る。第4遺構面のベース層にあたる。また考古学でいう地山層でもある。
- 第VIII層 黒色粘土。層厚は確認し得なかった。

[B区]

- 第I層 盛土。層厚は約1.0mを測る。
- 第II層 緑灰色砂質土が主体をなす。層厚は約0.1～0.2mを測る。第1遺構面のベース層にあたる。
- 第III層 黄褐色～緑灰色粘質シルト。層厚は約0.3～0.4mを測る。
- 第IV層 灰色系のシルト、砂質土が主体をなす。層厚は約0.15～0.3mを測る。
- 第V層 灰色砂が主体をなす。層厚は約0.2～0.3mを測る。第3遺構面のベース層にあたる。
- 第VI層 礫混じりの黒色粘土。層厚は約0.3～0.4mを測る。第4遺構面のベース層にあたる。また考古学でいう地山層でもある。
- 第VII層 暗灰緑色粘質土。層厚は確認し得なかった。

[C区]

- 第I層 盛土。層厚は約1.0mを測る。
- 第II層 灰緑色砂質土が主体をなす。層厚は約0.2mを測る。第1遺構面のベース層にあたる。
- 第III層 灰緑色シルト、褐灰色シルト。層厚は約0.15mを測る。
- 第IV層 灰褐色粘質シルト、褐黄色粘質シルト主体をなす。層厚は約0.3～0.4mを測る。第2遺構面のベース層にあたる。
- 第V層 灰色砂、淡灰青色微砂が主体をなす。層厚は約0.3～0.4mを測る。第3遺構面のベース層にあたる。
- 第VI層 黒褐色～黒灰色粘質シルト～粘土が主体をなす。層厚は約0.3～0.4mを測る。第4遺構面のベース層にあたる。
- 第VII層 黒灰色粘土。層厚は約0.3～0.4mを測る。
- 第VIII層 暗灰黒色粘土。層厚は0.1～0.3を測る。
- 第IX層 礫混じり黒灰色粘質土。層厚は0.1～0.2mを測る。第5遺構面のベース層にあたる。また考古学でいう地山層でもある。



- L 黒灰色土 (S D-A102)
- m 灰褐色粗砂 (S X-A301)
- n 緑灰色シルトと灰褐色砂質土の混合層 (S X-A301)
- o 腐爛～暗褐色砂混じり砂質土 (S X-A301) ※
- p 緑灰色シルト (S X-A301)
- q 緑灰色粗砂 (S X-A301)
- r 暗灰色粘土 (緑灰色粘土プロックを含む) (S X-A301)

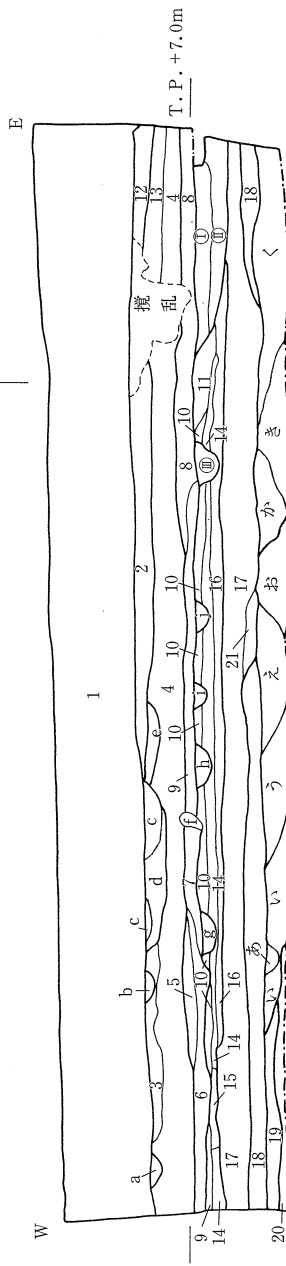
- 23 黒色粘土 (第7面)
- 24 黒灰色粘土 (茶色がかる)
- f 黒灰色粘土 (S D-A101)
- g 黒灰色粘土 (S D-A101)
- h 暗褐色シルト～土 (S D-A201) ※
- i 淡灰褐色シルト (S D-A202) ※
- j 灰色粘質土 (S D-A202)
- k 暗灰色砂混じり淡灰色シルト～土 (S D-A202) ※

- 16 暗緑灰色砂質土 (鉄分を含む)
- 17 A-A 暗緑色粘土
- 18 暗緑色粘土と暗緑灰色土の混合層
- 19 暗緑色砂質土 (遺構の可能性があった)
- 20 暗緑灰色粘土 (第5面)
- 21 黒色粘土 (第6面) ※
- 22 攪混じり黒灰色粘質～粘土 (第6面) ※

- 8 灰緑色シルト (鉄分を含む)
- 9 灰黄色粘土
- 10 灰黄色粘土と灰緑色シルトの混合層
- 11 粗灰色砂 (しまっている)
- 12 灰褐色シルトと暗緑色シルトの混合層
- 13 緑灰色粘土
- 14 暗灰色粗砂
- 15 暗褐色粘土

- A区 北壁断面
- 1 盛土
- 2 暗緑灰色砂質土
- 3 暗緑色粘質土
- 3-A 灰黄色粘土 (シルトっぽい)
- 4 灰褐色粘質土 (鉄分を含む)
- 5 灰色土混じり暗灰色粗砂
- 6 黒灰色粘土
- 7 暗灰色砂

第5図 A区調査区北壁断面図



- f 灰黄色粘土 (S D-B109の杭の産)
- g 灰緑色砂混じり灰緑色粘質シルト (S D-B301)
- h 暗褐色粘土 (S D-B303)
- i 暗褐色粘土 (S D-B304)
- j 暗褐色粘土 (S D-B305)
- あ 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S X-B301)
- い 暗褐色粘土 (S D-B402)
- う 暗褐色粘土 (S D-B402)
- え 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S D-B402)

- 18 淡灰緑色粘土 (5mm内外の攪混じり)
- 19 暗緑色粘土
- 20 暗緑色粘土
- 21 暗緑色粘土 (鉄分を含む) (S D-B103)
- a 灰黄色粘土 (鉄分を含む) (S D-B103)
- b 灰黄色粘土 (鉄分を含む) (S D-B102)
- c 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S D-B102) ※
- d 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S D-B101)
- e 淡灰褐色シルト (S D-B101)

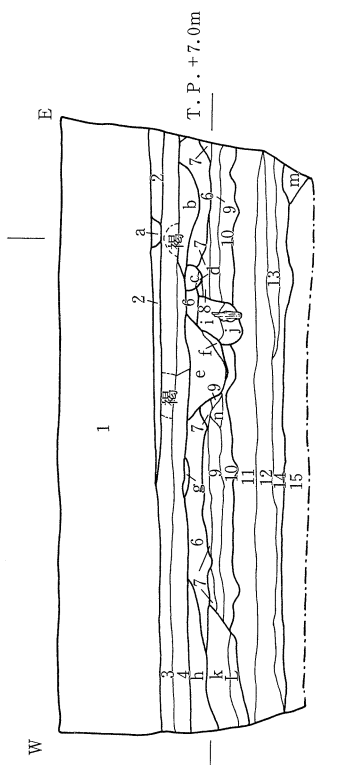
- 8 淡灰褐色砂質土 (第3面ベース層)
- 9 淡褐色粗砂
- 10 淡褐色粗砂
- 11 淡褐色粗砂 (第4面) ※
- 12 暗褐色粘土 (第5面ベース層)
- 13 暗褐色粘土 (第2面ベース層)
- 14 淡灰緑色シルト (第3面シルト層)
- 15 灰黄色粘土
- 16 暗茶黒色粘質シルト
- 17 黒色粘土 (5mm内外の攪混じり)

- B区 北壁断面
- 2 灰黄色粘土 (鉄分を含む) (第1面ベース層)
- 3 淡灰緑色粘土 (鉄分を含む) (第2面ベース層)
- 4 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (第2面ベース層)
- 5 暗褐色粘土 (第1面ベース層)
- 6 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (第3面ベース層)
- 7 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (第3面ベース層) ※

- お 淡灰緑色シルト (S D-B402)
- き 黒灰色粗砂 (S D-B402)
- く 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S X-B301)
- こ 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S X-B301)
- こ 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S X-B301)
- け 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S X-B301)
- け 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S X-B301)
- け 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S X-B301)
- け 暗褐色粘土 (鉄分を含む) (S X-B301)

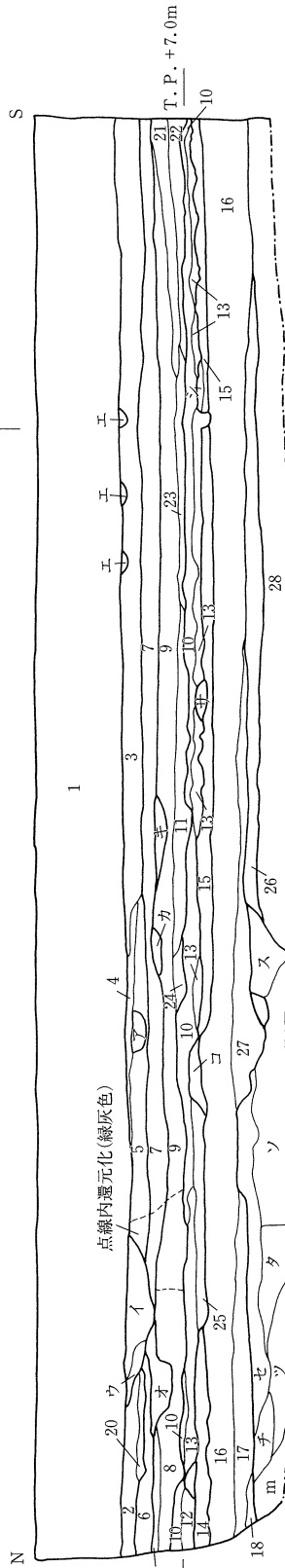
第6図 B区調査区北壁断面図

- C区 北壁断面
- 1 盛土
 - 2 にぶい灰緑色砂質土
 - 3 緑灰色シルト一部灰褐色シルト
 - 4 淡灰緑色シルト
 - 5 淡緑灰色シルト
 - 6 灰褐色粘質シルト
 - 7 灰色砂 (鉄分を含む)
 - 8 灰色シルト
 - 9 黄褐色微砂混じり淡灰緑色微砂 (鉄分を含む)
 - 10 灰色砂アロックス混じり暗褐色粘土～粘土 (水田ベース層) ※
 - 11 黒灰色粘土 (上面にマンガンを含む)
 - 12 2mm内外の礫混じり黒灰色粘土
 - 13 暗灰黒色粘土
 - 14 5mm内外の礫混じり黒灰色粘土
 - 15 5mm内外の礫混じり黒灰色粘土
 - 16 灰緑色砂質土



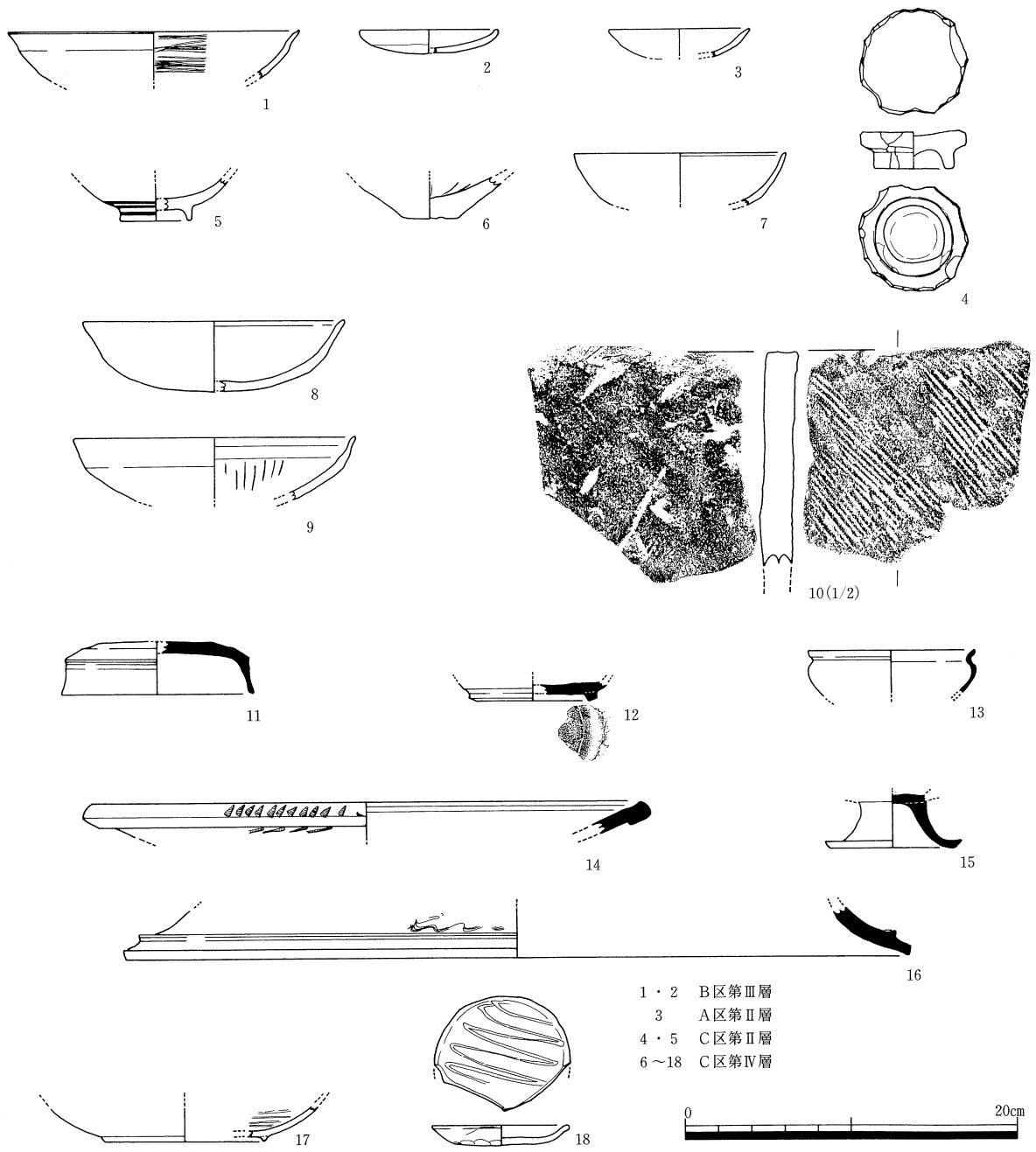
- a 暗灰オリーブ砂質土混じり青灰色砂質土 (罫C-101)
- b 淡灰黄色シルト (SD-C204)
- c 灰オリーブ色微砂 (鉄分を含む) (SD-C205)
- d 淡灰色粘土 (SD-C205)
- e 淡灰褐色シルト砂 (鉄分を含む) (SD-C206)
- f 灰色砂質土 (SD-C206)
- g 淡灰褐色微砂 (罫C-202)
- h 淡褐色シルト (SX-201)
- i 褐黄色砂質土 (SK-C303)
- j 緑灰色砂質土 (SK-C303)
- k 茶褐色土 (黄褐色砂質シルトブロックを含む) (SD-C306)
- l 灰色混じり暗褐色粘土 (SD-C306)
- m 淡灰青色シルト灰黄色粗砂、5mm内外の礫混じり暗灰色砂質土の混合層 (NR-C501)
- n 灰色砂質土 (鉄分を多量に含む) (畦畔15)

第7図 C区調査区北壁断面図

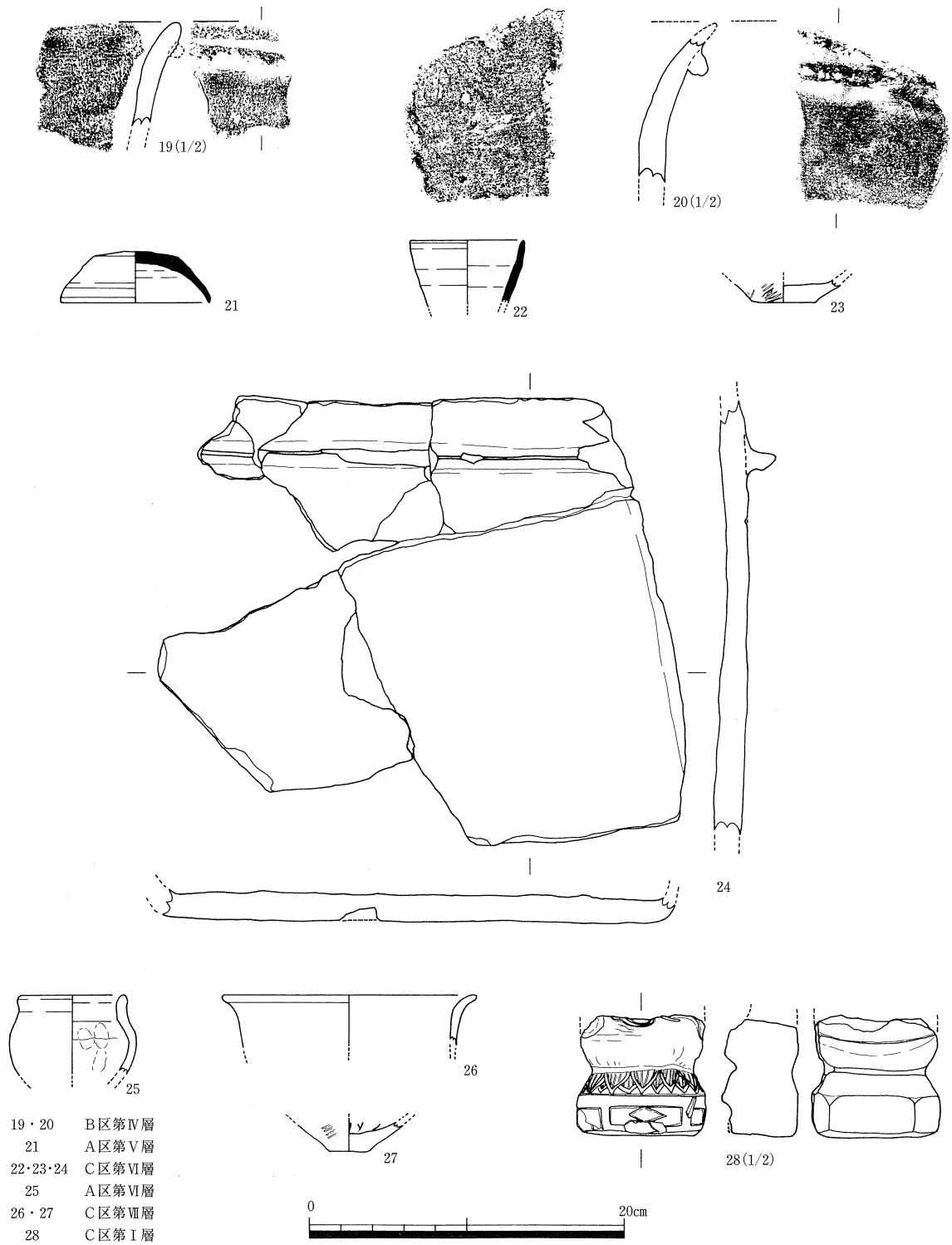


- 1 盛土
- 2 にぶい灰緑色砂質土
- 3 灰緑色砂質土
- 4 暗褐色土混じり灰色砂質土
- 5 淡灰褐色砂質土
- 6 灰緑色シルト一部灰褐色シルト
- 7 褐黄色シルト
- 8 灰褐色粘質シルト
- 9 褐色シルト
- 10 灰色砂 (鉄分を含む)
- 11 黄褐色微砂混じり淡灰緑色微砂 (鉄分を含む)
- 12 灰色砂アロックス混じり暗褐色粘土～粘土 (水田ベース層) ※
- 13 黒灰色粘土 (上面にマンガンを含む)
- 14 2mm内外の礫混じり黒灰色粘土
- 15 5mm内外の礫混じり黒灰色粘土
- 16 灰緑色砂質土
- 17 暗灰黒色粘質土
- 18 5mm内外の礫混じり黒灰色粘質土
- 19 灰緑色砂質土
- 20 灰色粘質土
- 21 暗灰褐色粘質土
- 22 暗灰褐色粘質土
- 23 褐色混じり灰色粘質土
- 24 黄褐色微砂混じり淡灰緑色微砂 (鉄分を含む)
- 25 灰青色粘質土混じり灰色砂
- 26 5mm内外の礫混じり黒灰色粘質土
- 27 5mm内外の礫混じり暗灰黒色粘質土
- 28 5mm内外の礫混じり暗灰黒色粘質土～粘土 (灰色粗砂を部分的に含む) ※
- ア 黄色粗砂アロックス混じり灰白色微砂 (黒い粒を含む) →該当する遺構なし
- イ オリーブ褐色砂質土 (SD-C101)
- ウ 灰褐色土 (罫C105、106、107)
- エ 黄褐色微砂 (罫C203)
- オ 淡灰褐色シルト (SD-C202)
- カ 淡灰褐色シルト (SD-C201)
- ク 褐色土混じり灰色砂質土 (SD-C302)
- ケ 灰色土 (鉄分を含む) (畦畔2)
- コ 暗灰青色粘質土 (鉄分を含む) (畦畔5)
- サ 暗青灰色粘土 (畦畔9)
- シ 暗青灰色粘土 (畦畔13)
- ス 暗緑灰色シルト (NR-C501)
- セ 5mm内外の礫混じり暗灰黒色砂質土 (NR-C501)
- ソ 灰黄色粗砂 (NR-C501)
- タ 灰褐色粗砂 (NR-C501)
- チ 緑灰色砂質土 (NR-C501)
- ツ 灰黄色粗砂 (NR-C501)

第8図 C区調査区東壁断面図



第9图 包含層等出土遺物(1)



第10図 包含層等出土遺物(2)

第2節 第1遺構面

A区第Ⅱ層、B区第Ⅱ層、C区第Ⅱ層をベース面として、溝、土坑、ピット、鋤溝を検出している。標高はA区でT.P.+7.5m、B区でT.P.+7.3m、C区でT.P.+7.7mを測る

1. 溝

[A区]

・SD-A101

A2、B2区にかけて検出した。規模は幅約0.5m、深さ約0.24mを測る。埋土は暗灰色粘質土である。遺物は土師器、須恵器、陶磁器が出土している。

・SD-A102

A2、B2区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は暗灰色粘質土である。遺物は磁器が出土している。

[B区]

・SD-B101

B3～4区にかけて検出した。規模は幅約0.55m、深さ約0.1mを測る。埋土はマンガンを含む淡灰緑色粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。

・SD-B102

A3～4、B3～4区にかけて検出した。規模は幅約1.4m、深さ約0.2mを測る。埋土は2層で、暗灰色砂質土、鉄分を含む灰緑色シルトである。遺物は土師器が出土している。

・SD-B103

A4区で検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.15mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色砂質土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

[C区]

・SD-C101

D2～5区にかけて検出した。規模は幅約0.75m、深さ約0.2mを測る。埋土は2層で、暗オリーブ灰色シルトブロック混じりの暗灰黒色土、鉄分を含む緑灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、磁器、瓦が出土している。

2. 土坑

[A区]

・SK-A101

A2～3、B2～3区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は暗灰色粘質土である。遺物は土師器、瓦質土器、磁器、瓦が出土している。

[C区]

・SK-C101

D2で検出した。形態、規模はSD-C101に切られているため明らかでない。埋土は暗黄色シルト混じりの暗灰色土である。遺物は土師器、須恵器、磁器が出土している。

・SK-C102

C3区で検出した。形態、規模は攪乱に切られているため明らかでない。埋土は暗黄色シルト混じりの暗灰色土である。遺物は土師器が出土している。

・SK-C103

D3～4区にかけて検出した。形態、規模は攪乱に切られているため明らかでない。埋土は3層で

暗灰色土、暗灰色砂質土、暗黄色礫混じりの灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、磁器、瓦が出土している。

・SK-C104

D4区で検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は暗黄色シルト混じりの暗灰色土である。遺物は土師器、磁器が出土している。

3. ピット

[C区]

・SP-C101

C2区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.38m、深さ約0.03mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は土師器、磁器が出土している。

・SP-C102

C3区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.6m、深さ約0.22mを測る。埋土は緑灰色シルトブロック混じりの黒灰色土である。遺物は土師器が出土している。

・SP-C103

C5区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.5m、深さ約0.24mを測る。埋土は暗灰色砂質土である。遺物は出土していない。

4. 鋤溝

・鋤溝C101

C1～2、D1～2区にかけて検出した。規模は幅約0.5m、深さ約0.11mを測る。埋土は黒灰色である。遺物は土師器が出土している。

・鋤溝C102

D1～2区にかけて検出した。規模は幅約0.15m、深さ約0.02mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は土師器が出土している。

・鋤溝C103

C3区で検出した。規模は幅約0.15m、深さ約0.01mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は出土していない。

・鋤溝C104

D3区で検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.05mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は土師器、瓦が出土している。

・鋤溝C105

D3、E3区にかけて検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.05mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は土師器が出土している。

・鋤溝C106

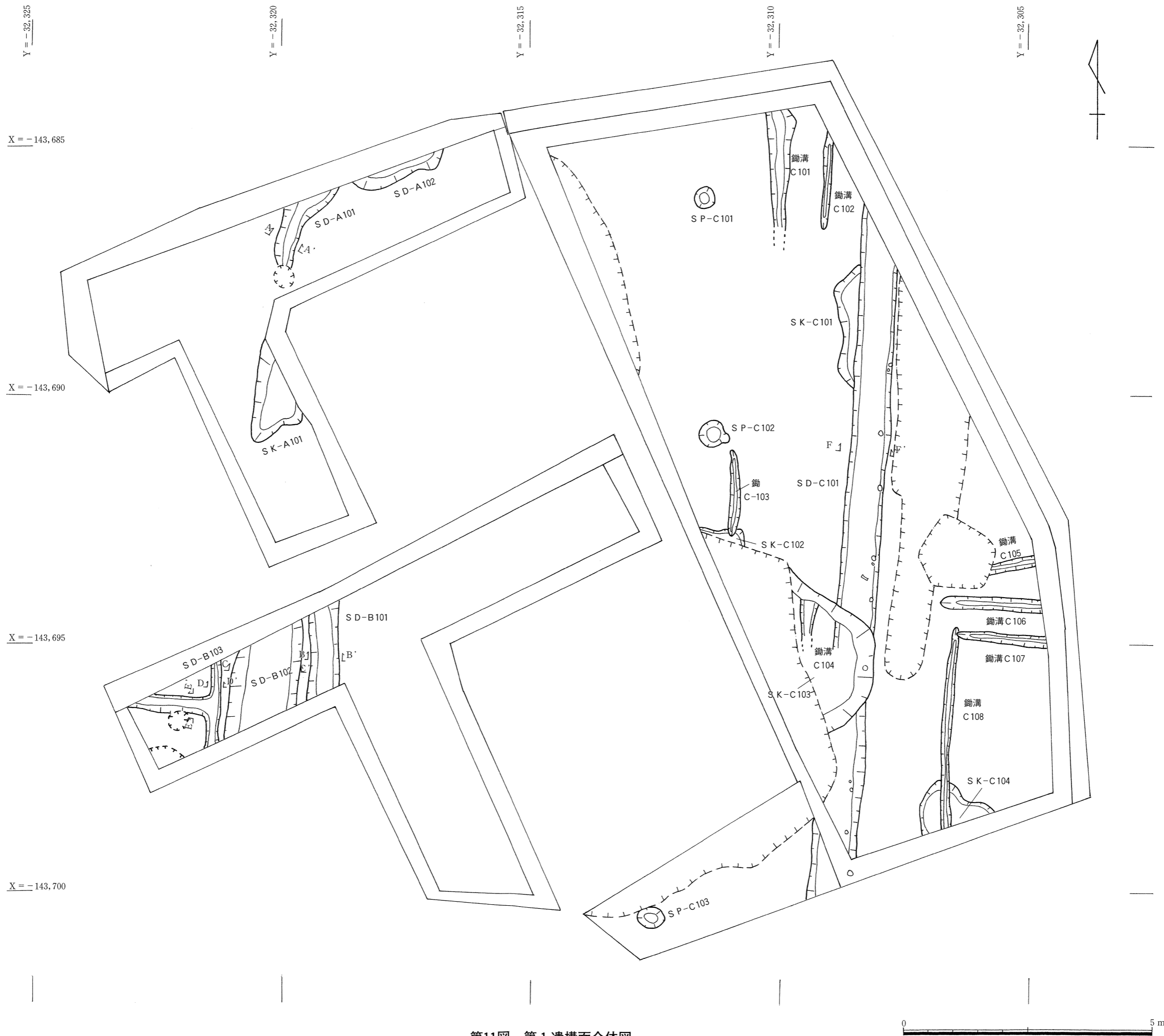
D3、E3区にかけて検出した。規模は幅約0.25m、深さ約0.02mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は磁器が出土している。

・鋤溝C107

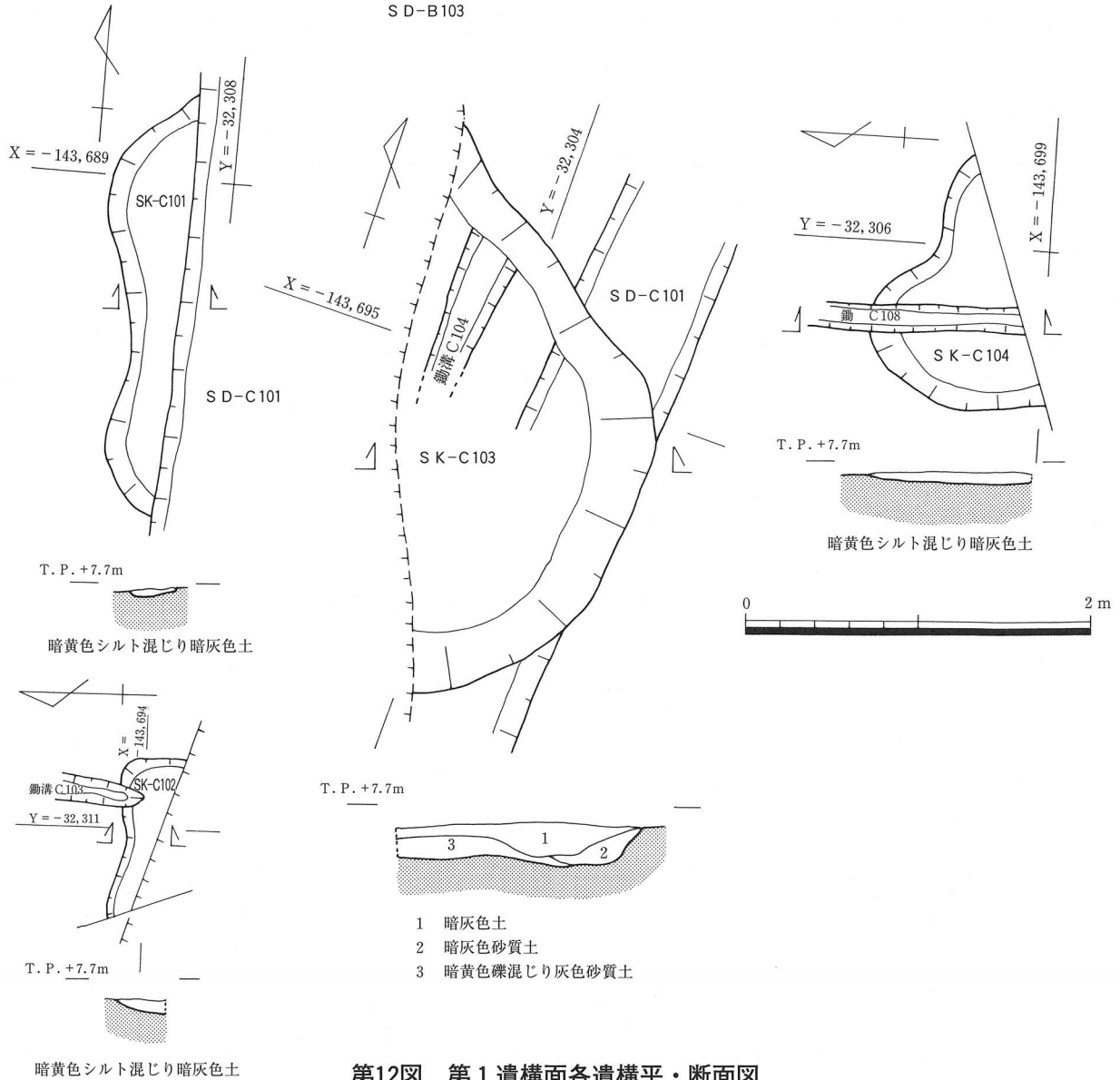
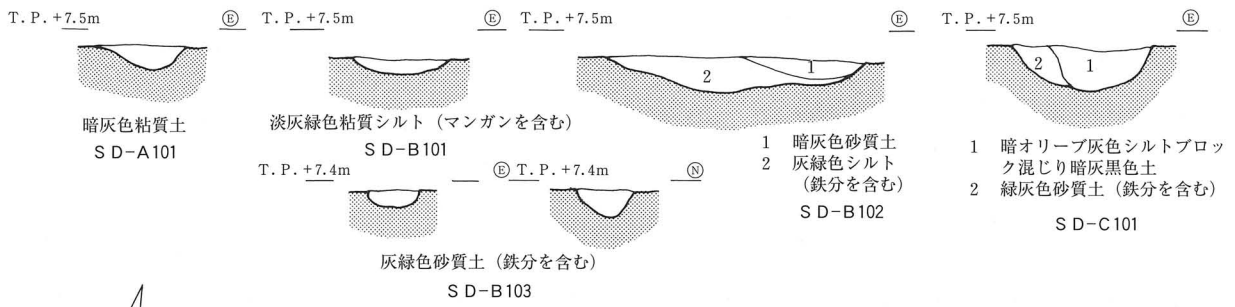
D3～4、E3～4区にかけて検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.04mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は出土していない。

・鋤溝C108

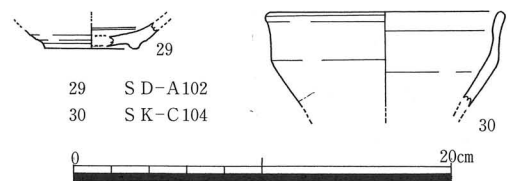
D3～4区にかけて検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.07mを測る。埋土は暗灰色土である。遺物は土師器が出土している。



第11図 第1遺構面全体図



第12図 第1遺構面各遺構平・断面図



第13図 第1遺構面出土遺物

第3節 第2遺構面

A区第IV層、C区第IV層をベース面として、溝、土坑、ピットを検出している。標高はA区でT.P. +6.9m、C区でT.P. +7.3mを測る

1. 溝

[A区]

・SD-A201

A2で検出した。規模は幅約1.0m、深さ約0.09mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色粘質砂質土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-A202

A2～3区にかけて検出した。規模は幅約0.5m、深さ約0.15mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色粘質砂質土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

[C区]

・SD-C201

D3～4区にかけて検出した。規模は幅約0.55m、深さ約0.15mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色シルトである。遺物は出土していない。

・SD-C202

D3～4区にかけて検出した。規模は幅約0.25m、深さ約0.06mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色シルトである。遺物は土師器、瓦器が出土している。

・SD-C203

D2～4区にかけて検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.2mを測る。埋土は淡褐色シルトである。遺物は土師器、須恵器、黒色土器、サヌカイト片が出土している。

・SD-C204

C1～3、D1～3区にかけて検出した。規模は幅約0.7m、深さ約0.25mを測る。埋土は2層で、暗灰緑色シルト、礫混じりの黒褐色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器、瓦器が出土している。

・SD-C205

C1～3区にかけて検出した。規模は幅約0.35m、深さ約0.25mを測る。埋土は褐灰色シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-C206

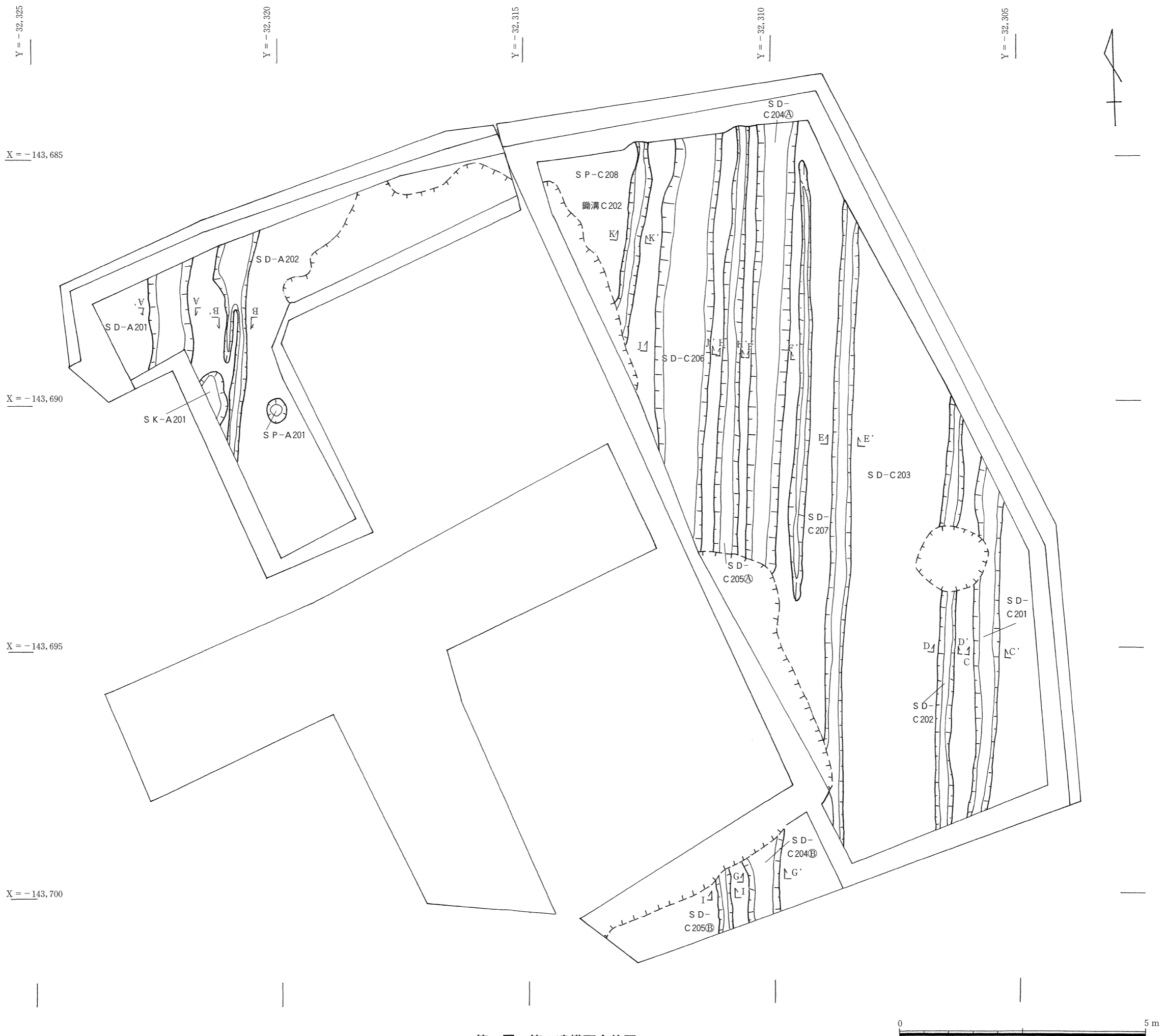
C1～3区にかけて検出した。規模は幅約1.3m、深さ約0.25mを測る。埋土は2層で、淡緑灰色シルト、灰褐色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器が出土している。

・SD-C207

D2～3区にかけて検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.04mを測る。遺物は出土していない。

・SD-C208

C1～2区にかけて検出した。規模は幅約0.5m、深さ約0.1mを測る。埋土は淡灰褐色シルトである。遺物は出土していない。



第14図 第2遺構面全体図

2. 土坑

[A区]

・SK-A201

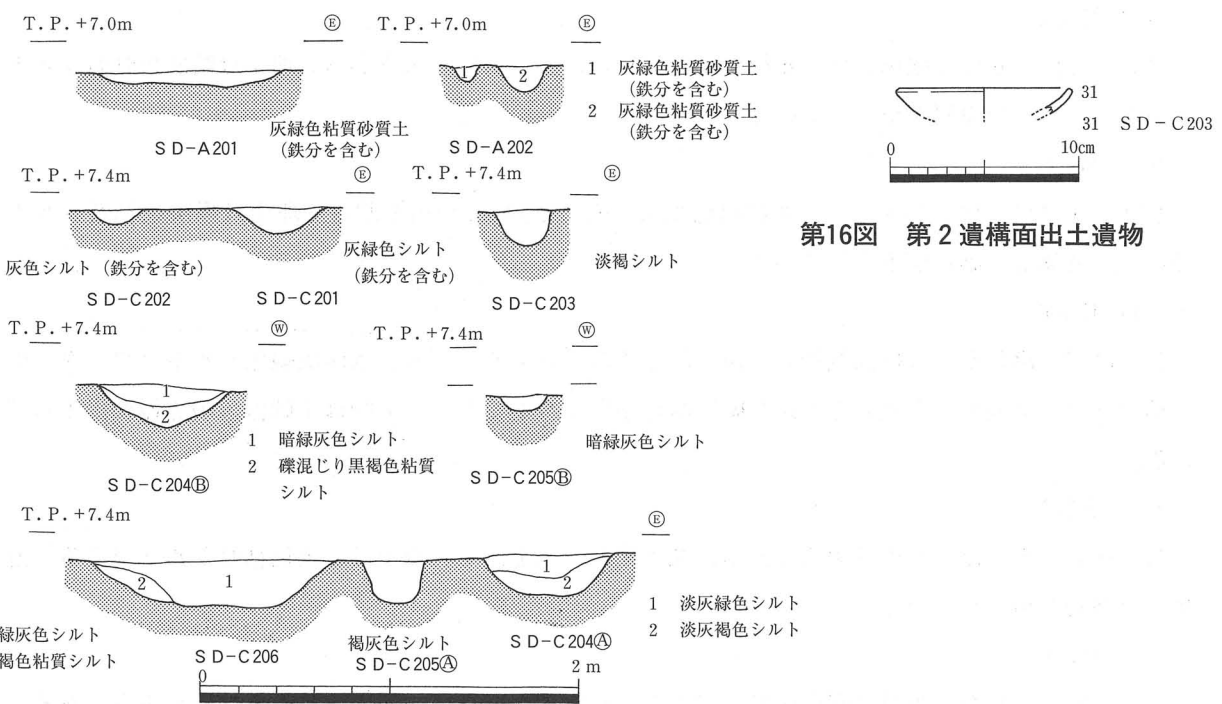
A2～3区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は灰緑色粘質砂質土である。遺物は出土していない。

3. ピット

[A区]

・SP-A201

A2～3、B2～3区にかけて検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.4m、深さ約0.08mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色砂である。遺物は出土していない。



第16図 第2遺構面出土遺物

第15図 第2遺構面各遺構断面図

第4節 第3遺構面

A区第VI層、B区第V層、C区第V層をベース面として、溝、土坑、ピット、不明遺構を検出している。標高はA区でT.P. +6.7m、B区でT.P. +6.8m、C区でT.P. +7.0mを測る

1. 溝

[A区]

・SD-A301

A2区で検出した。規模は幅約0.75m、深さ約0.1mを測る。埋土は鉄分を含む緑灰色シルトブロック混じりの暗灰黒色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

・SD-A302

A3、B3区にかけて検出した。規模は幅約0.25m、深さ約0.06mを測る。埋土は黒色粘土ブロック混じりの緑灰色砂である。遺物は出土していない。

[B区]

・SD-B301

A3、A4区にかけて検出した。規模は幅約0.35m、深さ約0.06mを測る。埋土は灰緑色砂混じりの灰緑色粘質シルトである。遺物は出土していない。

・SD-B302

B4区で検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.08mを測る。埋土は暗灰緑色粘質シルトである。遺物は出土していない。

・SD-B303

B3～4区にかけて検出した。規模は幅約0.25m、深さ約0.08mを測る。埋土は暗灰色粘質シルトである。遺物は木片が出土している。

・SD-B304

B3～4区にかけて検出した。規模は幅約0.15m、深さ約0.06mを測る。埋土は暗灰色粘質シルトである。遺物は須恵器が出土している。

・SD-B305

B3～4区にかけて検出した。規模は幅約0.4m、深さ約0.13mを測る。埋土は黒灰色粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。

・SD-B306

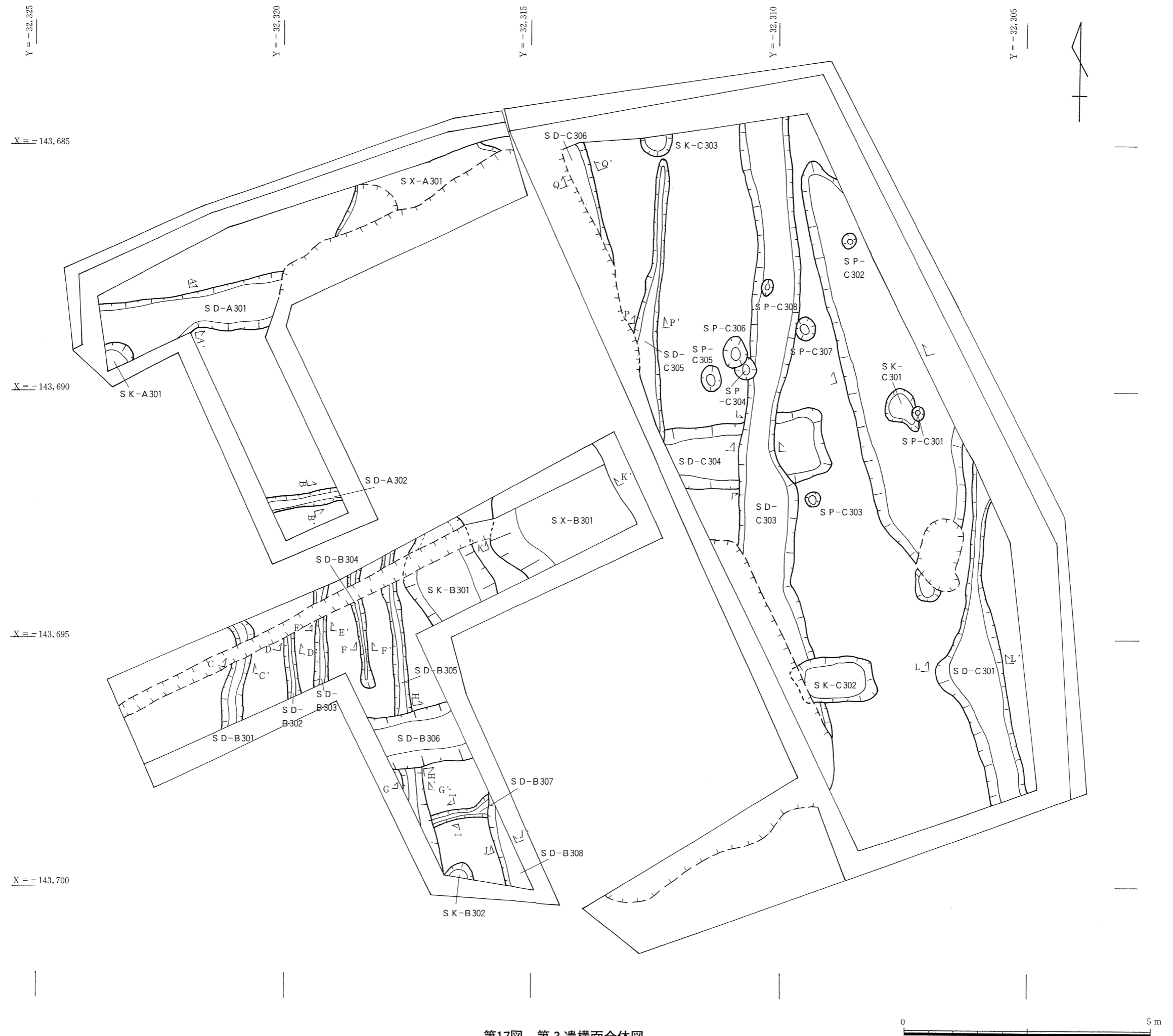
B4区で検出した。規模は幅約0.15m、深さ約0.23mを測る。埋土は淡灰緑色シルトブロック、黒色粘土ブロック混じりの鉄分を含んだ暗灰緑色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-B307

B4区で検出した。規模は幅約0.25m、深さ約0.04mを測る。埋土は暗灰色粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。

・SD-B308

B4区で検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は黒灰色粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。



第17図 第3遺構面全体図

[C区]

・SD-C301

D3～4区にかけて検出した。規模は幅約1.3m、深さ約0.12mを測る。埋土は灰色砂ブロック、青灰色粘質シルトブロック混じりの鉄分を含んだ灰青色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-C302

D2～3区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は灰色砂混じりの鉄分を含んだ褐灰色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-C303

C1～3、D1～3区にかけて検出した。規模は幅約0.6m、深さ約0.1mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-C304

C3、D3区にかけて検出した。規模は幅約1.3m、深さ約0.35mを測る。埋土は3層で、鉄分を含む灰褐色砂質土、砂礫混じりの灰緑色粘質シルト、砂礫混じりの暗灰黒色粘土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-C305

C2～3区にかけて検出した。規模は幅約0.45m、深さ約0.08mを測る。埋土は灰色粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。

・SD-C306

C1～2区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は灰褐色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

2. 土坑

[A区]

・SK-A301

A2区で検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。遺物は出土していない。

[B区]

・SK-B301

B3区で検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は2層で、黄褐色シルト混じりの灰色粘質シルト、暗灰緑色砂混じりの鉄分を含む粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SK-B302

B4区で検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。遺物は出土していない。

[C区]

・SK-C301

D2～3区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、長径約0.9m、短径約0.65m、深さ0.07mを測る。埋土は緑灰色粘質シルトである。遺物は出土していない。

・SK-C302

D4区で検出した。形態は隅丸の長方形を呈し、長径約1.65m、短径約0.9m、深さ約0.18mを測

る。埋土は2層で、暗灰青色シルト、黒褐色粘質シルト～粘土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SK-C303

C1～2区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は2層で、灰褐色砂質土、灰黄色砂質土である。遺物は出土していない。

3. ピット

[C区]

・SP-C301

D3区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.25m、深さ約0.13mを測る。埋土は緑灰色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

・SP-C302

D2区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.3m、深さ約0.08mを測る。埋土は緑灰色粘質シルトである。遺物は出土していない。

・SP-C303

D3区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.3m、深さ約0.05mを測る。埋土は緑灰色シルト混じりの灰色砂である。遺物は出土していない。

・SP-C304

C2区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.4m、深さ約0.04mを測る。埋土は褐灰色砂質土である。遺物は出土していない。

・SP-C305

C2区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.55m、短径約0.4m、深さ約0.3mを測る。埋土は褐灰色砂質土である。遺物は出土していないが、柱根が残存していた。

・SP-C306

C2区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.65m、短径約0.5m、深さ約0.13mを測る。埋土は褐灰色砂質土である。遺物は須恵器が出土している。

・SP-C307

D2区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.4m、深さ約0.24mを測る。埋土は褐灰色砂質土である。遺物は須恵器が出土している。

・SP-C308

C2区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.35m、短径約0.23m、深さ約0.09mを測る。埋土は灰緑色粘質シルトである。遺物は出土していない。

4. 不明遺構

[A区]

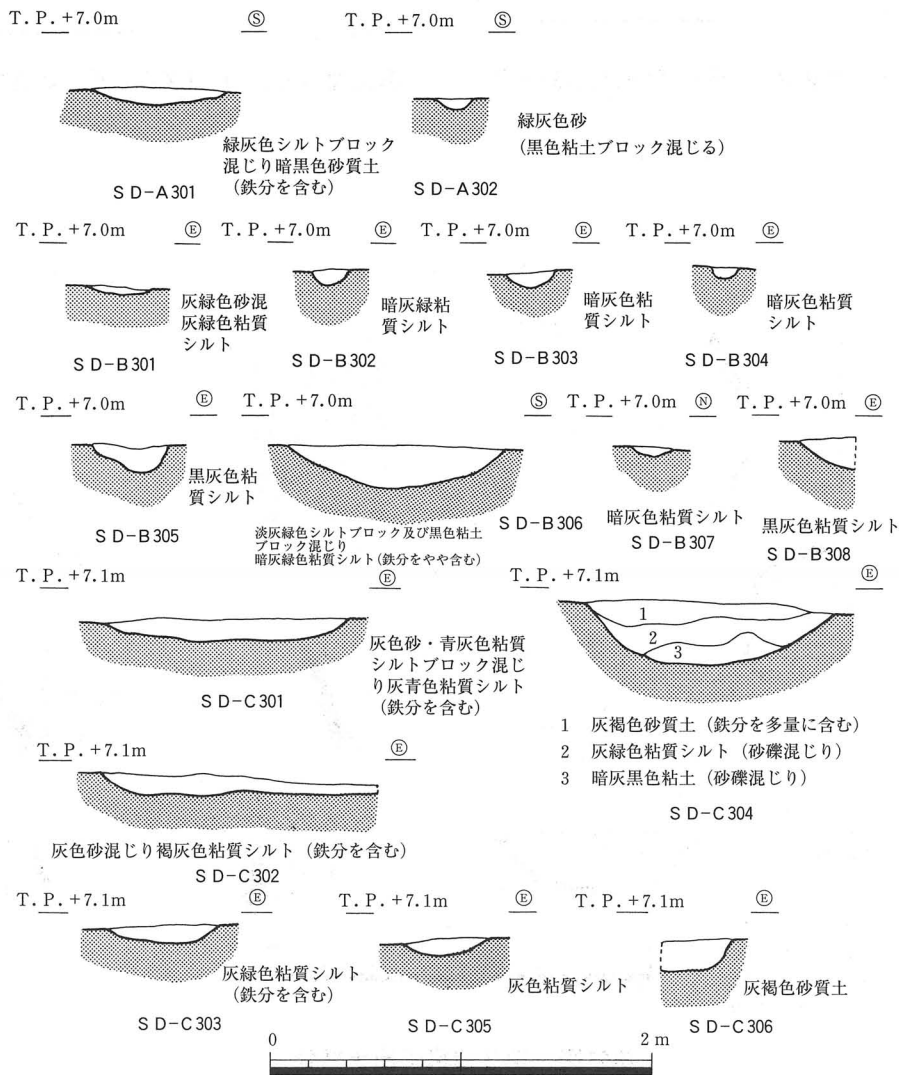
・SX-A301

B1～2区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。遺物は出土していない。

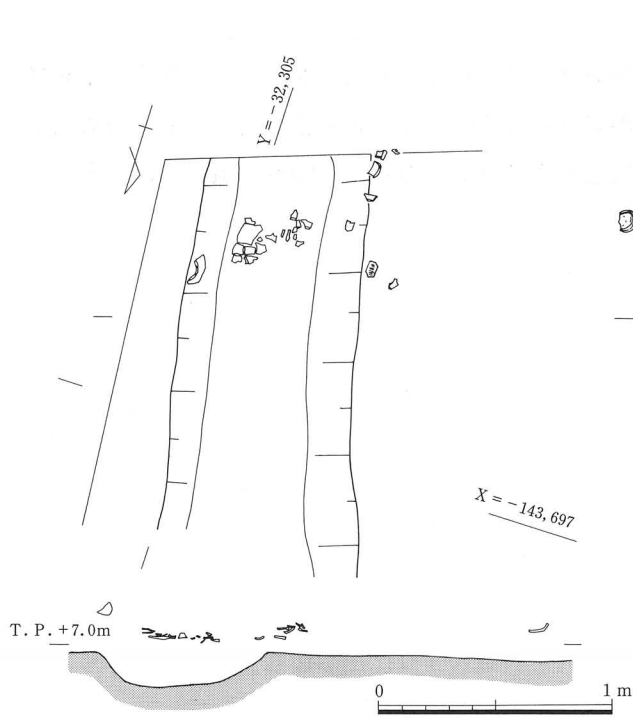
[B区]

・SX-B301

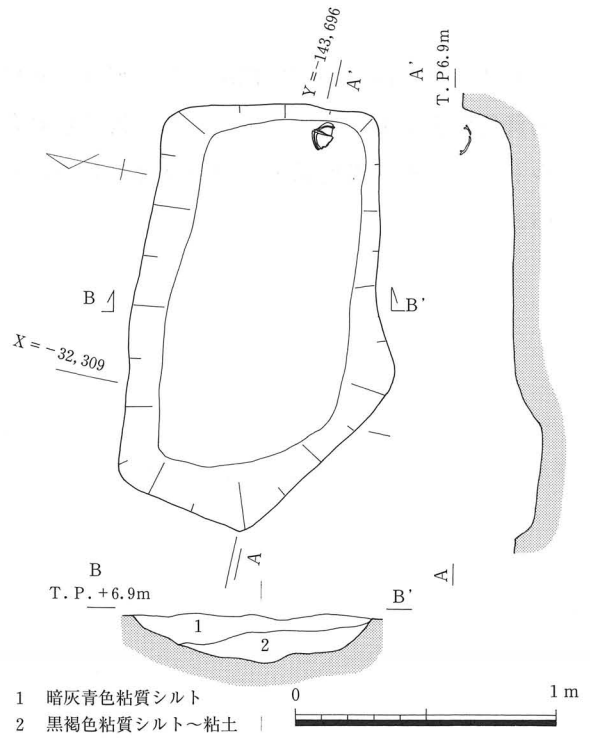
B3、D3区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は4層で、褐黄色砂質土混じりの灰色シルト、褐黄色砂質土混じりの灰色砂質土、暗灰色粘質シルト、淡灰色シルトブロック、黒色粘土ブロック混じりの灰～暗灰色粘土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。



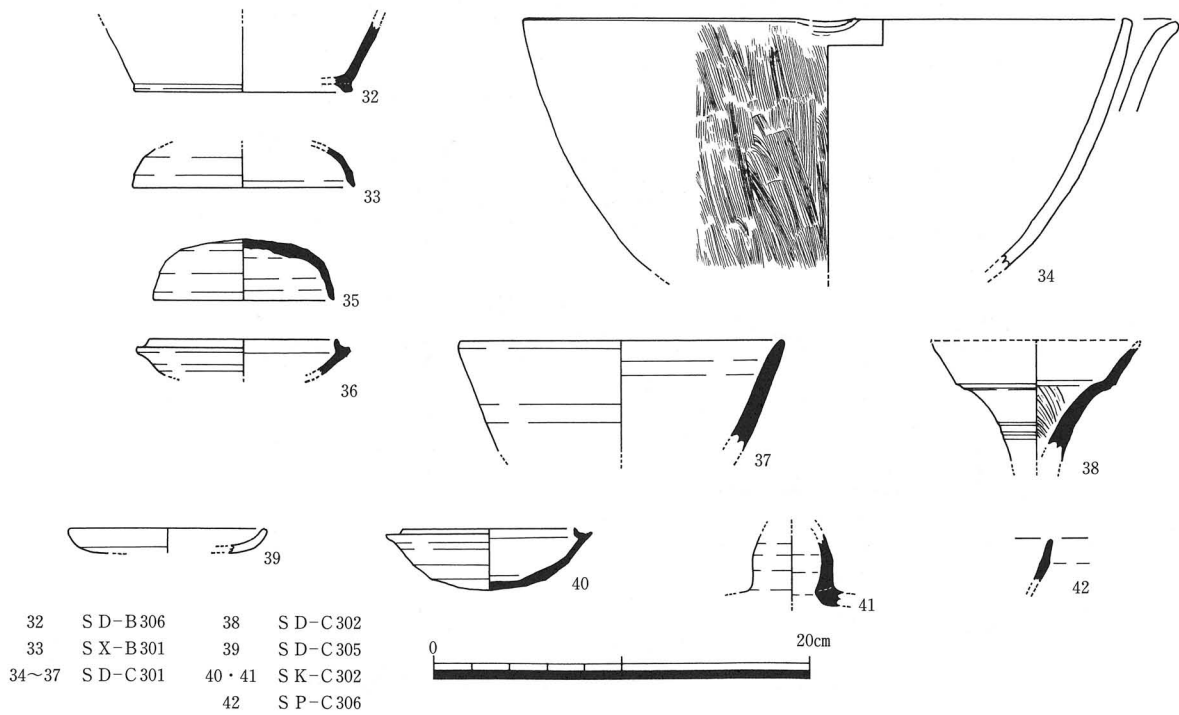
第18図 第3遺構面各遺構断面図



第19図 SD-C301平・断・遺物出土状況図



第20図 SK-C302平・断・遺物出土状況図



第21図 第3遺構面出土遺物

第5節 第4遺構面

C区基本層序第VI層をベース面として水田跡を検出した。A、B区では削平を受けたようで、対応する水田層は見受けられなかった。

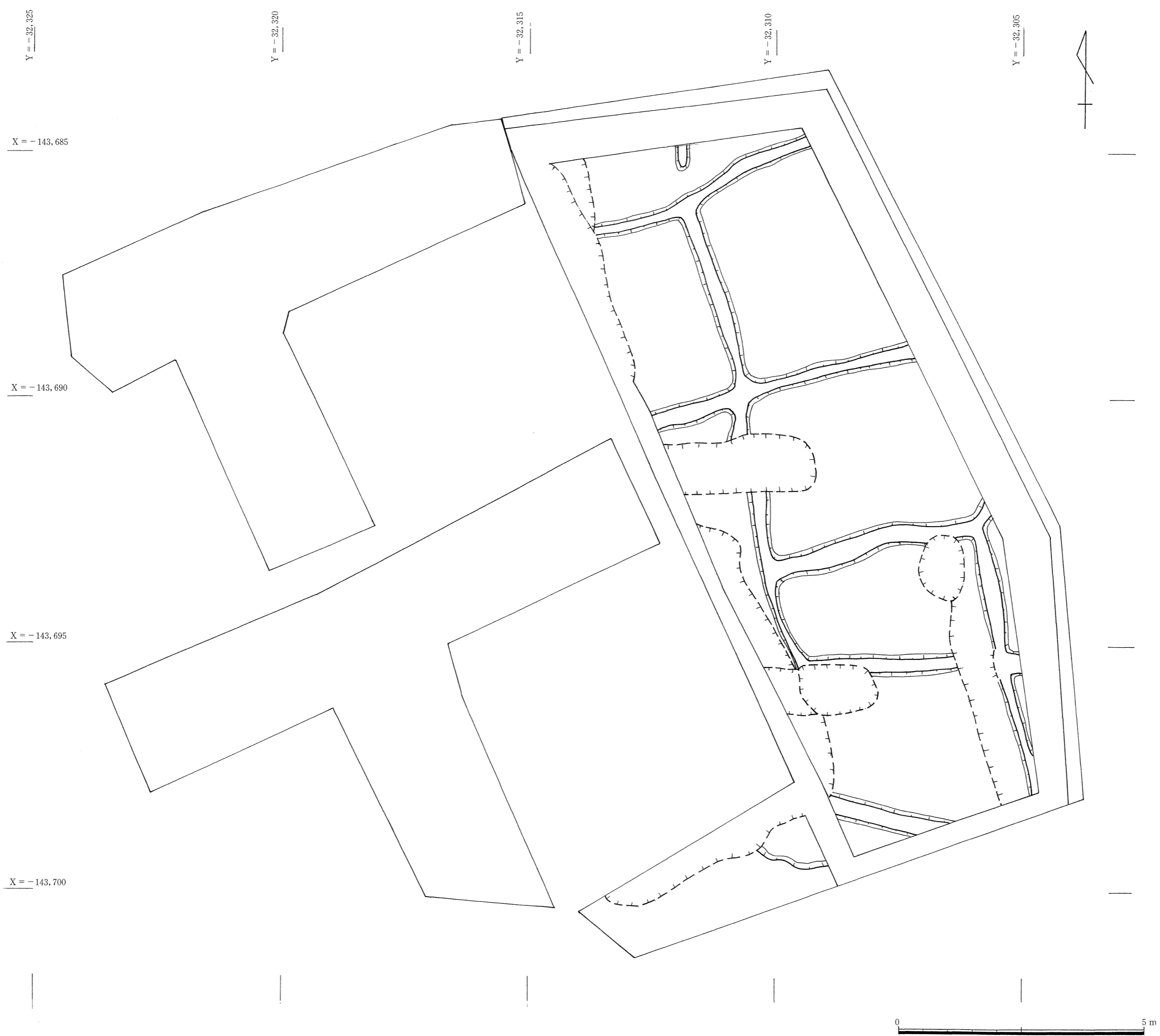
[C区]

・水田跡

C区全域にわたって検出したもので、上層の砂、微砂が厚く堆積していたため、非常に良好な状態で残されていた。

水田面はほぼ正方形～長方形の形態であると思われ、標高は平均約T.P.+6.8mを測り、ほぼ水平な状況であったが、西側に位置するA区、B区において削平されていた状況を鑑みるに、水田としては東方に展開していたものと思われる。

また、畦畔は幅約0.4m、高さ約0.07mを測り、調査区北側では水口も見受けられた。遺物は畦畔から土師器、サヌカイト片が出土し、水田ベース層からは土師器、須恵器が出土している。



第22図 第4遺構面全体図

第6節 第5遺構面

A区第Ⅶ層、B区第Ⅵ層、C区第Ⅸ層をベース面として、溝、土坑、不明遺構、自然河川を検出している。標高はA区でT. P. +5.6~6.0m、B区でT. P. +6.2m、C区でT. P. +6.1mを測る

1. 溝

[B区]

・SD-B401

B4区で検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は2層で、黒灰色粘質シルト、灰黄色粗砂である。遺物は出土していない。

・SD-B402

A4、B3~4、C3区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。遺物は縄文土器が出土している。

2. 土坑

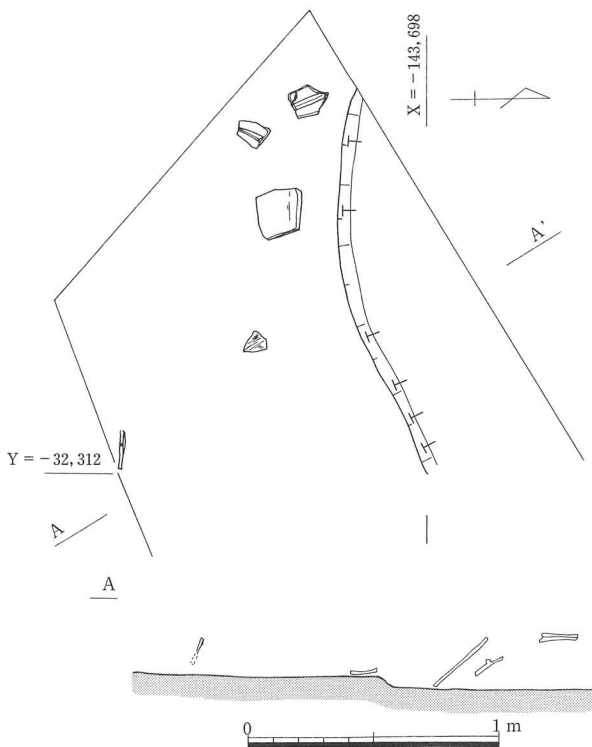
[C区]

・SK-C501

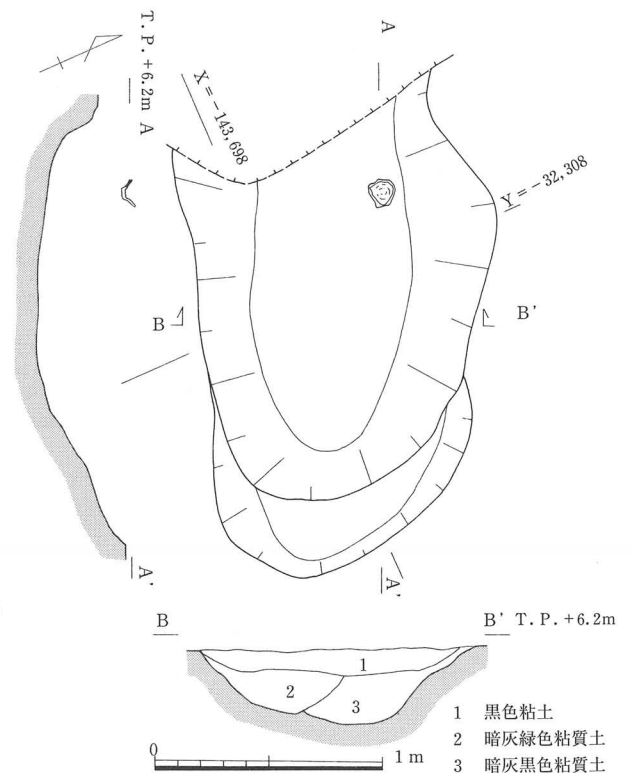
D4区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈するものと思われ、規模は短径約1.2m、深さ約0.35mを測る。埋土は3層で、黒色粘土、暗灰緑色粘質土、暗灰黒色粘質土である。遺物は弥生土器が出土している。

4. 不明遺構

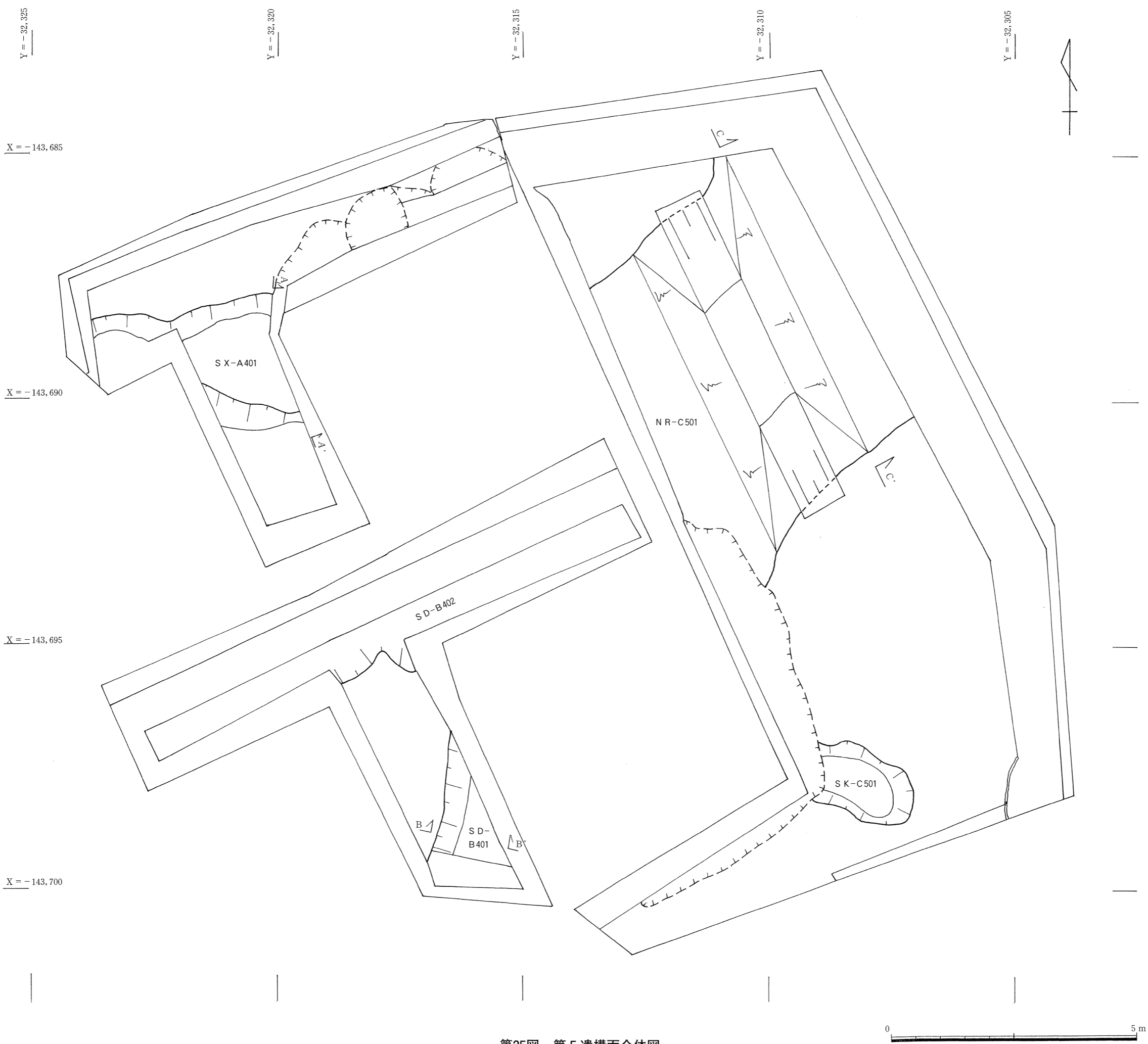
[A区]



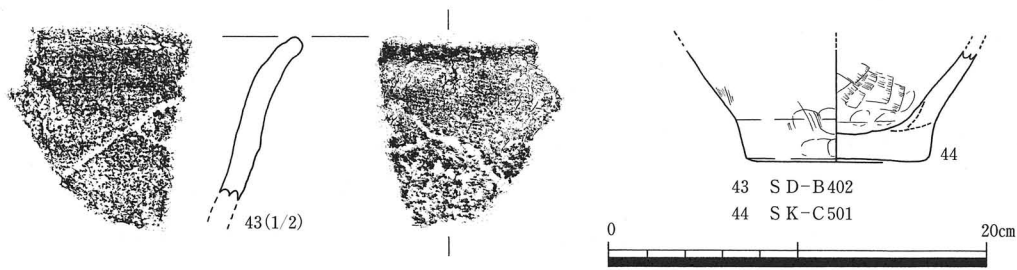
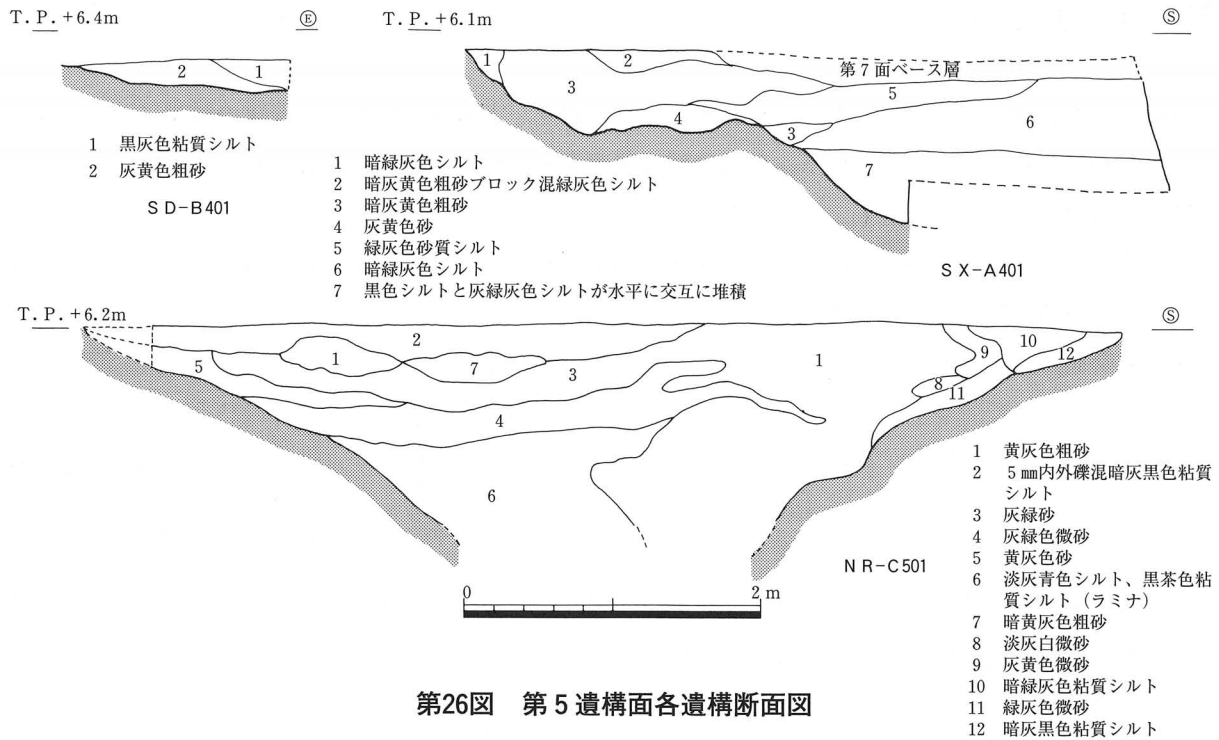
第23図 包含層(第5遺構面直上)遺物出土状況図



第24図 SK-C501平・断・遺物出土状況図



第25図 第5遺構面全体図



・ SX-A401

A 2～3、B 2～3区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は7層で暗緑灰色シルト、暗灰黄色粗砂ブロック混じりの緑灰色シルト、暗灰黄色粗砂、灰黄色砂、緑灰色砂質シルト、暗緑灰色シルト、黒色シルトと暗緑灰色シルトの互層である。遺物は弥生土器が出土している。

3. 自然河川

[C区]

・ NR-C501

C 2～3、D 2～3区にかけて検出した。規模は幅約7.9m、深さは約1.4m以上を測る。埋土は12層で黄灰色粗砂、礫混じりの暗灰黒色粘質シルト、灰緑色砂、灰緑色微砂、黄灰色砂、淡灰青色シルトと黒茶色粘質シルトの互層、暗黄灰色粗砂、淡灰白色微砂、灰黄色微砂、暗緑灰色粘質シルト、緑灰色微砂、暗灰黒色粘質シルトである。遺物は縄文土器と思われる遺物が出土している。

第5章 まとめ

中垣内遺跡においては、本調査も含め13次にわたる調査が実施されており、遺跡の様相についてはかなり明らかにされてきている。以下、各遺構面の調査成果について概括し、まとめとしたい。

〔第1遺構面〕

主に溝を検出しているが、周辺の既往の調査と同様に耕作に伴って形成されたものと思われる。出土遺物から時期的には近世以降に比定されるものとする。

〔第2遺構面〕

主に溝を検出しているが、第1遺構面同様、耕作に伴って形成されたものと思われる。出土遺物では土師器のほか、瓦器なども出土しており時期的には概ね中～近世にかけて比定されるものとする。

〔第3遺構面〕

主に溝、土坑などを検出しているが、具体的な性格については明らかにし得ないものである。出土遺物から時期的には古墳時代後期～奈良時代にかけて比定されるものとする。

〔第4遺構面〕

水田を良好な状態で検出しているが、周辺の既往の調査においても水田が多く確認されている。時期的には古墳時代前期から後期の範囲内に比定されているものが多いが、今回の水田については、水田のベース層から須恵器が出土していることから、概ね古墳時代中～後期に比定されるものとする。

〔第5遺構面〕

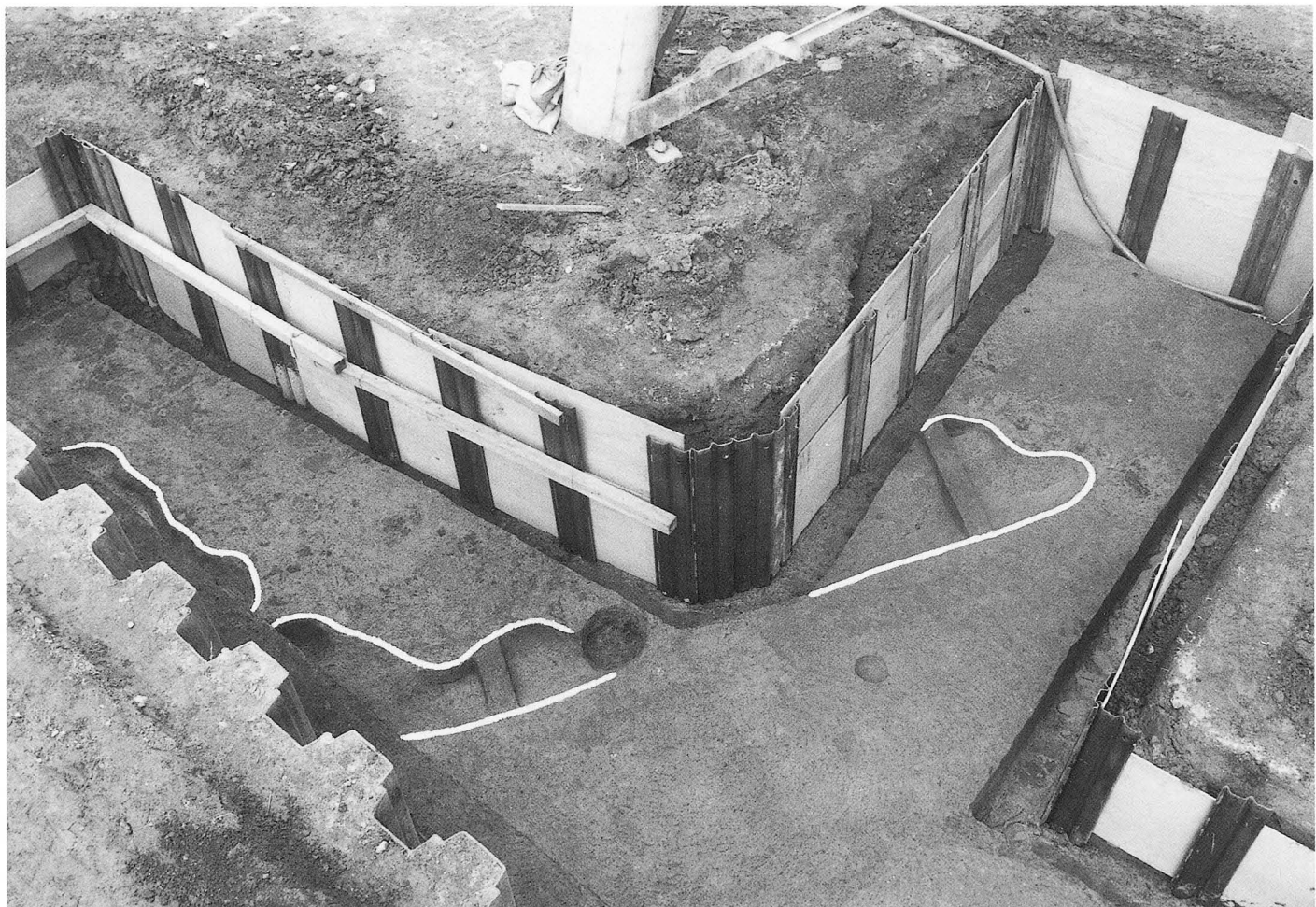
C区では東西に走る自然流路を検出しているが、A区、B区に至って若干、不明瞭になる状況であった。周辺の既往の調査においても最終面では自然河川を検出することが多く、今回の調査においても同様のものであった。出土遺物についても弥生土器のほか、縄文土器も出土することが多い。時期的には弥生時代以前に比定されるものとする。大東市北部に位置する北新町遺跡の調査例からみても、大東市域の低地部においてはおよそこのような様相を呈するものと思われる。

中垣内遺跡 (NG T96-1) 出土遺物一覧表

挿図 番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	技法の特徴	備考
1	瓦器 椀	B区 第層	口径(推) 17.5 器高(残) 3.0	外)黒灰 内)黒灰 断)灰白	良好	密	外面:ナデ、指押さえ・ナデ 内面:ナデ、ヘラミガキ	
2	土師器 皿	B区 第層	口径(推) 8.2 器高(残) 1.45	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ	外面に粘土紐接合痕
3	土師器 皿	A区 第層	口径(推) 8.4 器高(残) 1.7	外)灰黄 内)灰黄 断)灰黄	良好	密	外面:ナデ、指押さえ 内面:磨滅のため不明	
4	陶製円板	C区 第層	長幅厚 6.4 6.5 2.25	胎)灰黄 釉)灰オリーブ	堅緻	密	周囲打ち欠き	唐津焼椀より転用
5	磁染付器 椀	C区 第層	高台径(推) 4.2 器高(残) 2.5	外)／ 内)／ 断)／	堅緻	密	内外面施釉、高台部外面は畳付・釉剥 ぎ、見込みは蛇ノ目釉剥ぎ	肥前 高台内離れ砂付着
6	弥生土器 甕	C区 第層	底径(推) 3.7 器高(残) 2.5	外)灰 内)灰 断)灰黄	良好	やや粗	外面:磨滅のため不明 内面:板ナデ	底部充填
7	土師器 杯	C区 第層	口径(推) 12.7 器高(残) 3.2	外)橙 内)橙 断)橙	良好	密	外面:磨滅のため不明 内面:磨滅のため不明	
8	土師器 杯	C区 第層	口径(推) 15.7 器高(残) 4.2	外)にぶい橙 内)橙 断)灰	良好	密	外面:ナデ 内面:磨滅のため不明	
9	土師器 杯	C区 第層	口径(推) 17.0 器高(残) 3.8	外)橙 内)にぶい赤褐 断)にぶい赤褐	良好	密	外面:磨滅のため不明 内面:ナデ、暗文	
10	円筒埴輪	C区 第層	器高(残) 6.4	外)橙 内)橙 断)橙	軟質	やや粗	外面:ハケメ 内面:ナデ	
11	須恵器 器蓋	C区 第層	口径(推) 11.6 器高(残) 3.2	外)暗青灰 内)灰白 断)灰	堅緻	密	外面:回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ	外面に降灰
12	須恵器 器身	C区 第層	底径(推) 7.7 器高(残) 1.15	外)灰 内)灰 断)灰赤	堅緻	密	外面:回転ナデ、ヘラ状工具の痕跡 内面:ナデ	
13	須恵器 器蓋	C区 第層	口径(推) 10.0 器高(残) 2.7	外)灰 内)灰 断)灰白	堅緻	密	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	
14	須恵器 器蓋	C区 第層	口径(推) 33.0 器高(残) 1.9	外)灰 内)灰 断)灰白	堅緻	密	外面:回転ナデ、列点文 内面:回転ナデ	口縁部外面に降灰
15	須恵器 器杯	C区 第層	底径(推) 7.25 器高(残) 3.2	外)灰 内)灰 断)灰白	堅緻	密	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	
16	須恵器 器台	C区 第層	底径(推) 47.5 器高(残) 2.95	外)灰白 内)明オリーブ灰 断)灰白	堅緻	密	外面:回転ナデ、波状文 内面:回転ナデ	外面に降灰
17	黒色土器 椀	C区 第層	高台径(推) 9.5 器高(残) 2.1	外)にぶい赤褐 内)黒灰 断)灰白	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラミガキ	A類
18	瓦器 皿	C区 第層	口径 8.2 器高 1.2	外)灰白 内)灰白 断)灰白	やや不良	密	外面:指押さえ 内面:ナデ、ヘラミガキ	粘土紐接合痕
19	縄文土器	B区 第層	器高(残) 3.3	外)にぶい褐 内)灰黄褐 断)黒褐	良好	やや粗	外面:ナデ 内面:ナデ	
20	縄文土器	B区 第層	器高(残) 4.6	外)褐灰 内)灰黄褐 断)灰黄褐	良好	やや粗	外面:ナデ、突帯に刻み 内面:ナデ	
21	須恵器 器蓋	A区 第層	口径(推) 9.5 器高(残) 3.3	外)明青灰 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	外面:回転ナデ 内面:ナデ	
22	須恵器 器蓋	C区 第層	口径(推) 7.2 器高(残) 4.2	外)暗緑灰 内)灰白 断)青灰	堅緻	密	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	
23	弥生土器 甕	C区 第層	底径(推) 4.0 器高(残) 1.5	外)にぶい赤褐 内)にぶい黄橙 断)灰黄橙	良好	密	外面:タタキメ 内面:指押さえ、ナデ	
24	土製品	C区 第層	長幅厚(残) 29.6 33.5	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	外面:ナデ 内面:指押さえ、ナデ	移動式竈か
25	手捏土器 小壺	A区 第層	口径(推) 6.5 最大径(推) 8.0 器高(残) 5.1	外)にぶい黄 内)灰 断)灰	良好	密	外面:ナデ 内面:指押さえ、ナデ	
26	弥生土器 甕	C区 第層	口径(推) 16.2 器高(残) 3.4	外)橙 内)明褐 断)褐灰	良好	やや密	外面:磨滅のため不明 内面:磨滅のため不明	
27	弥生土器 甕	C区 第層	底径(推) 2.5 器高(残) 1.9	外)灰黄 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面:タタキメ 内面:板ナデ	外面煤付着
28	土製品 人形	C区 第層	残高幅厚 3.9 4.05 2.4	外)浅黄橙 断)浅黄橙	良好	密		型作り、尊像名不明
29	陶器 皿	A区 SD- A 102	高台径(推) 5.0 器高(残) 1.4	胎)灰白 釉)浅黄	堅緻	密	外面:回転ヘラケズリ、露胎 内面:施釉、沈線、釉剥ぎ	瀬戸
30	陶器 椀	C区 SK- C 104	口径(推) 12.3 器高(残) 5.2	胎)灰白 釉)暗茶	堅緻	密	外面:施釉、一部ロケズリ、露胎 内面:施釉	瀬戸美濃天目椀
31	土師器 皿	C区 SD- C 203	口径(推) 9.0 器高(残) 1.3	外)浅黄 内)浅黄 断)浅黄	良好	密	外面:磨滅のため不明 内面:ナデ	
32	須恵器 器蓋	B区 SD- B 306	底径(推) 11.4 器高(残) 3.8	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	
33	須恵器 器蓋	B区 SX- B 301	口径(推) 11.7 器高(残) 2.1	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	

挿図 番号	器 種	出土地点	法量 (cm)	色 調	胎 土	焼成	技 法 の 特 徴	備 考
34	土 師 器 鉢 片 口	C区 S D - C 3 0 1	口径 (推) 器高 (残) 32.4 13.4	外) におい黄橙 内) におい黄橙 断) におい黄橙	良好	やや粗	外面: ハケ目 内面: ナデ	外面煤付着
35	須 惠 器 蓋 杯	C区 S D - C 3 0 1	口径 (推) 器高 (残) 9.6 3.1	外) 灰白 内) 灰白 断) 灰白	堅緻	密	外面: 回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面: 回転ナデ、ナデ	外面に降灰
36	須 惠 器 身 杯	C区 S D - C 3 0 1	口径 (推) 器高 (残) 13.2 1.95	外) 灰白 内) 灰白 断) 明オリープ灰	堅緻	密	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	
37	須 惠 器 鉢 杯	C区 S D - C 3 0 1	口径 (推) 器高 (残) 17.1 5.95	外) 明青灰 内) 明青灰 断) 灰白	堅緻	密	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	外面に降灰
38	須 惠 器 鉢 ハ ソ	C区 S D - C 3 0 2	口径 (推) 器高 (残) 11.1 6.4	外) 明青灰 内) 灰青・灰白 断) 青灰・灰白	堅緻	密	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	
39	土 師 器 鉢 皿	C区 S D - C 3 0 5	口径 (残) 器高 (残) 10.4 1.3	外) 灰黄 内) におい黄橙 断) におい黄橙	良好	密	外面: ナデ 内面: 磨滅のため不明	
40	須 惠 器 身 杯	C区 S K - C 3 0 2	口径 (推) 器高 (残) 9.0 3.25	外) 灰 内) 灰 断) 灰	堅緻	密	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	外面に降灰 底部にカマ記号
41	須 惠 器 蓋 杯	C区 S K - C 3 0 2	器高 (残) 4.9	外) オリープ灰 内) 灰 断) 灰	堅緻	密	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	
42	須 惠 器 鉢 杯	C区 S P - C 3 0 6	器高 (残) 2.5	外) 灰白 内) 灰白 断) 灰白	堅緻	密	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	外面に降灰
43	縄 文 土 器 鉢 杯	B区 S D - B 4 0 2	器高 (残) 4.3	外) におい黄褐 内) 灰黄褐 断) 灰黄褐	良好	やや粗	外面: 磨滅のため不明 内面: 磨滅のため不明	
44	弥 生 土 器 鉢 杯	C区 S K - C 5 0 1	底径 器高 (残) 9.7 5.9	外) におい黄橙 内) 灰白 断) 黒褐	良好	やや密	外面: ハケメ、指押さえ 内面: ハケメ	体部外面に煤付着

写 真 图 版



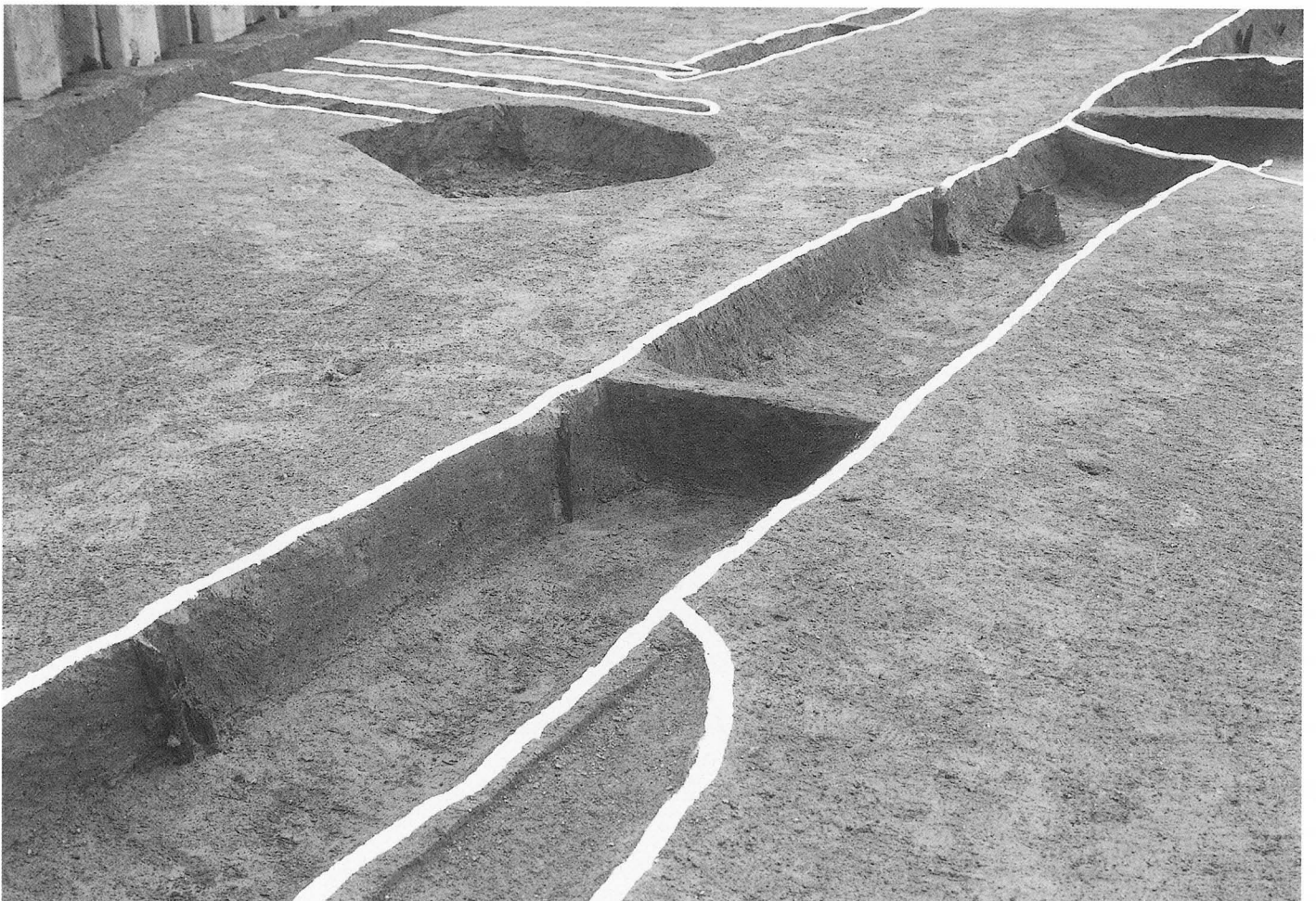
1. A区 第1遺構面全景(北より)



2. B区 第1遺構面全景(西より)



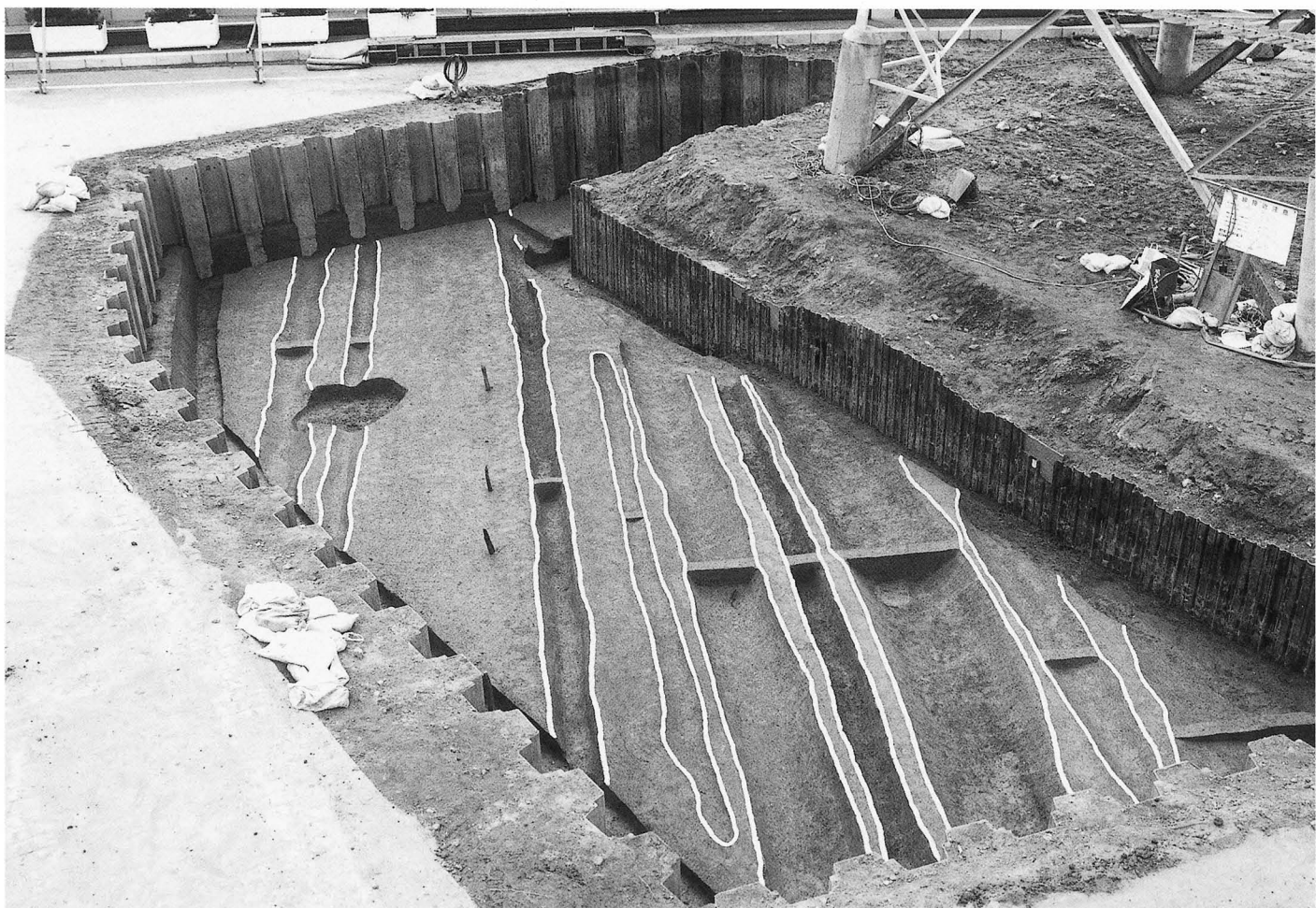
1. C区 第1遺構面全景(北より)



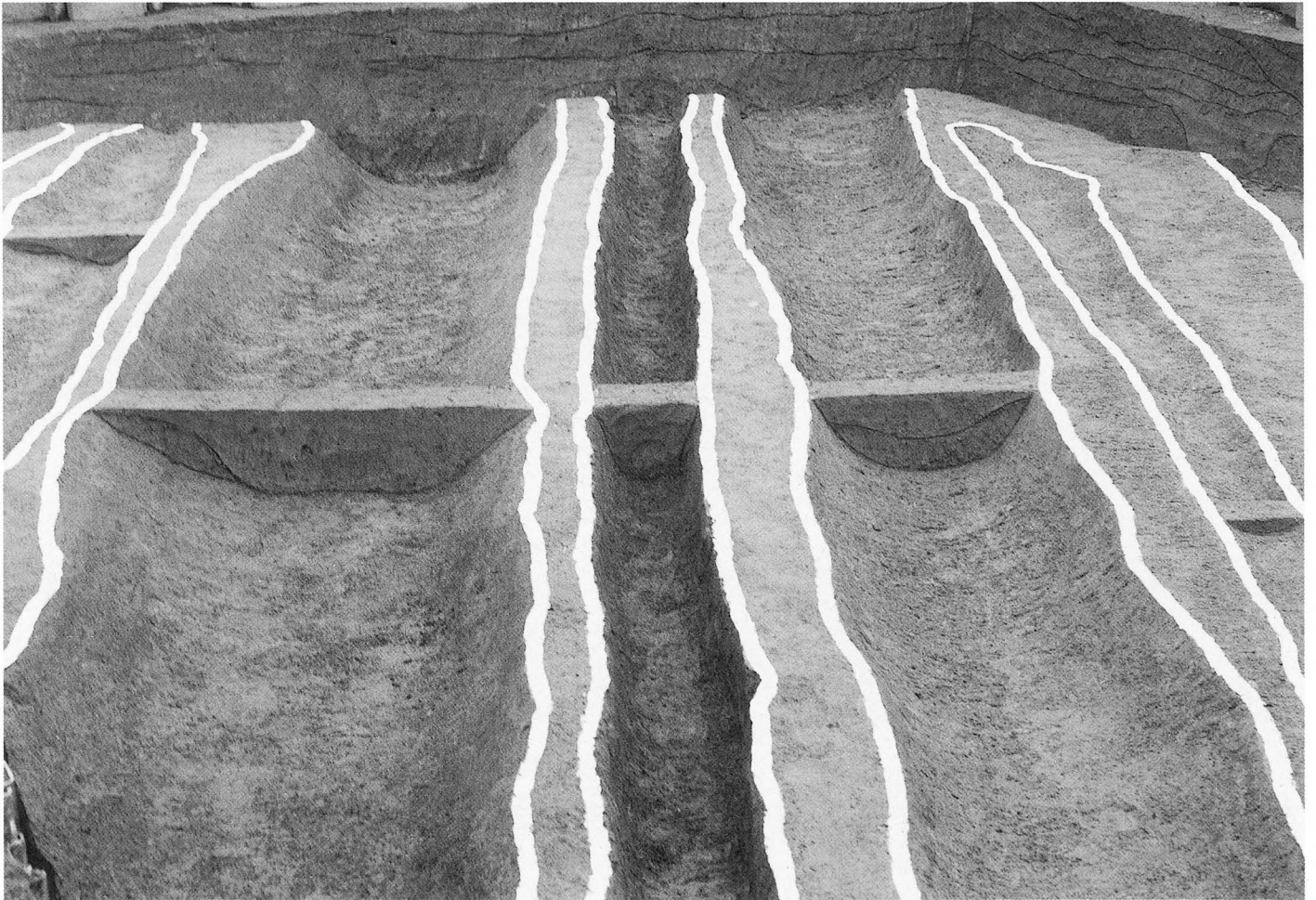
2. C区SD-C101(北より)



1. A区 第2遺構面全景 (北より)



2. C区 第2遺構面全景 (北より)



1. C区SD-C204・C205・C206 (南より)



2. A区 第3遺構面全景 (北より)



1. B区 第3遺構面全景(北より)



2. C区 第3遺構面全景(北より)



1. C区 SK-C302 (東より)



2. C区 SK-C302遺物出土状況



1. SD-C301遺物出土状況



2. 同上 (北より)

図版 8
遺構(8)



1. C区 第4遺構面全景(北より)



2. C区 水田跡(南より)



1. C区 水田跡 (東より)



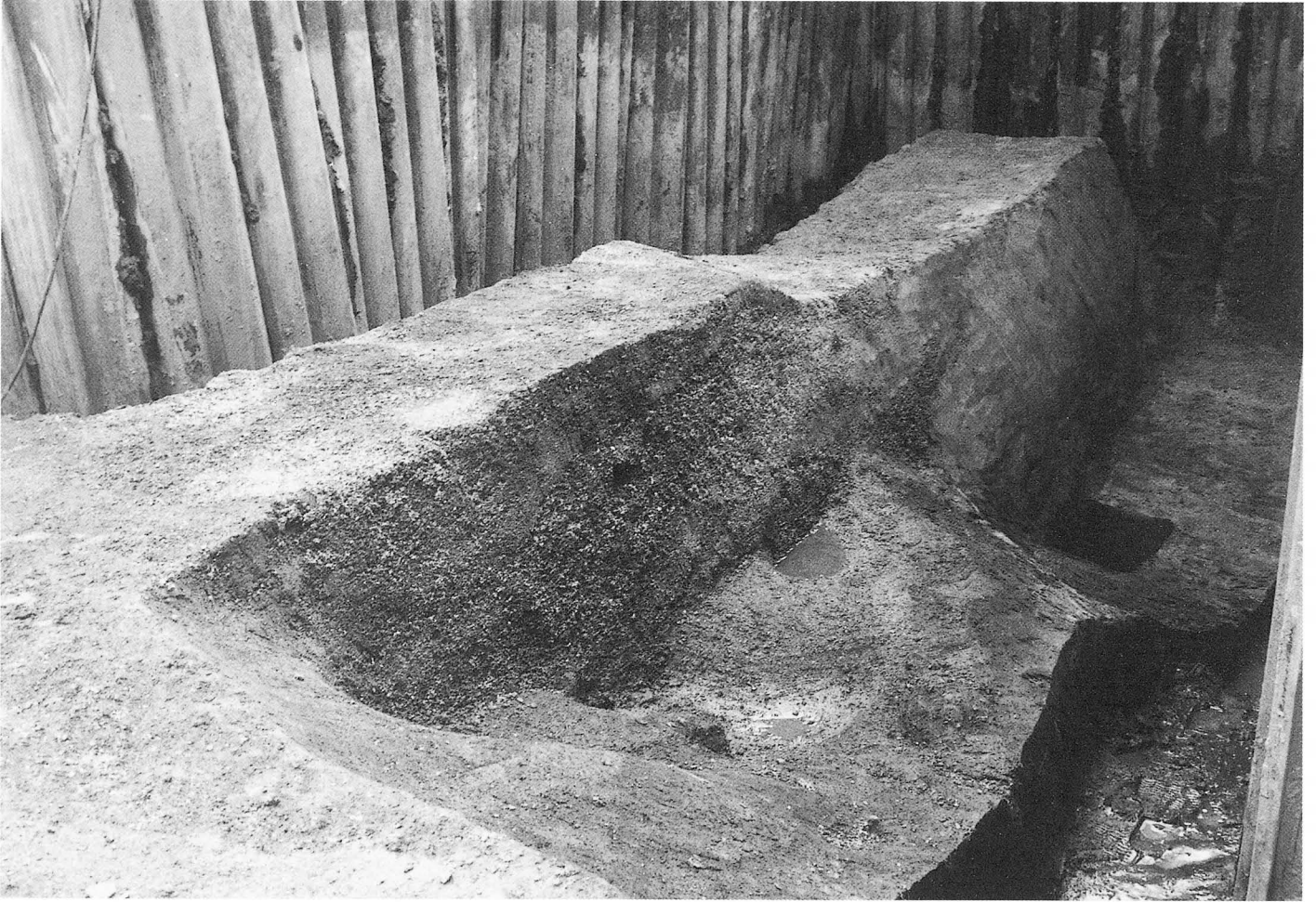
2. C区 水田跡水口 (東より)



1. C区 第V層遺物出土状況(南東より)



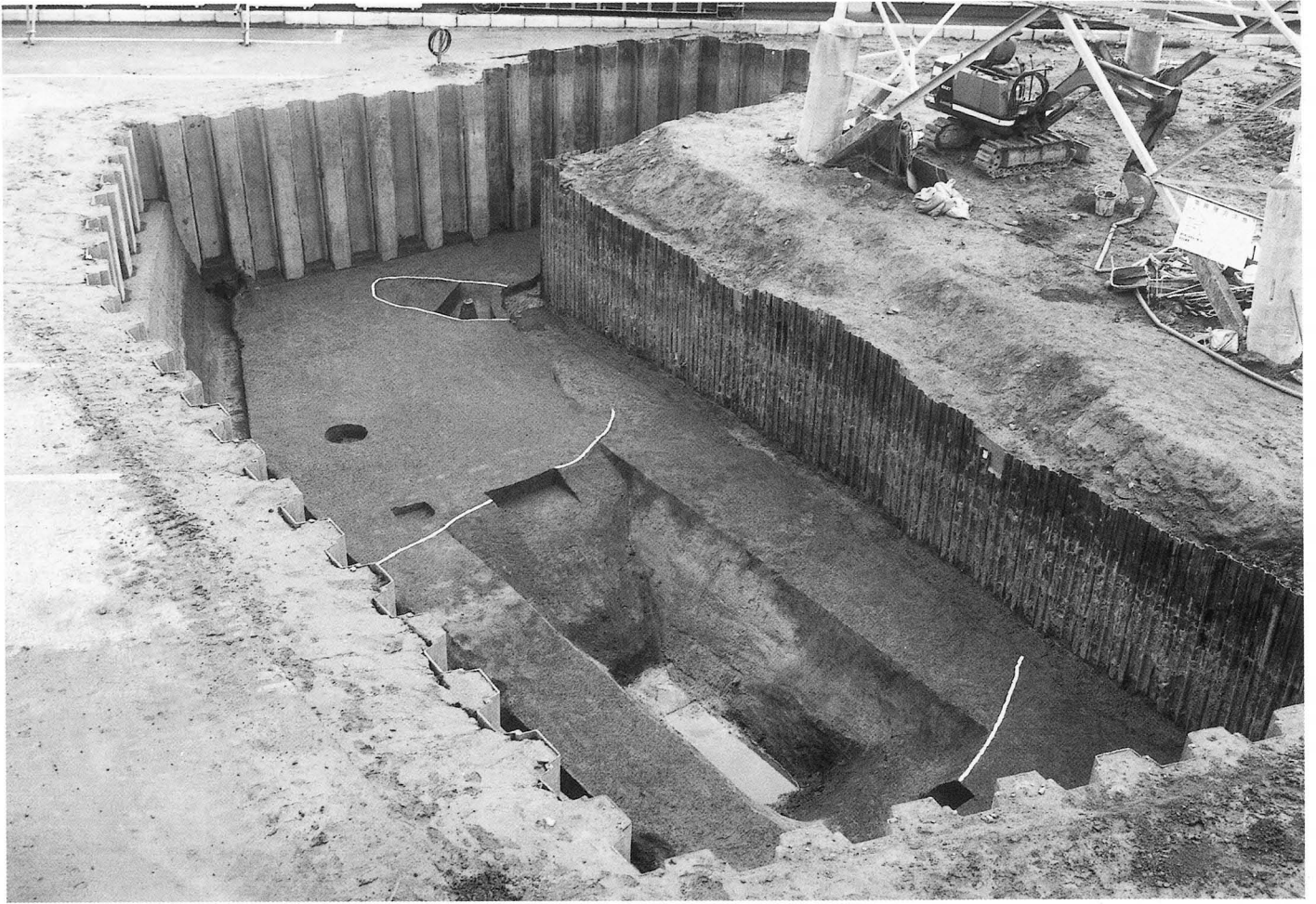
2. A区 SX-A401



1. A区 SX-A401断面(北西より)



2. B区 第4遺構面全景(北より)



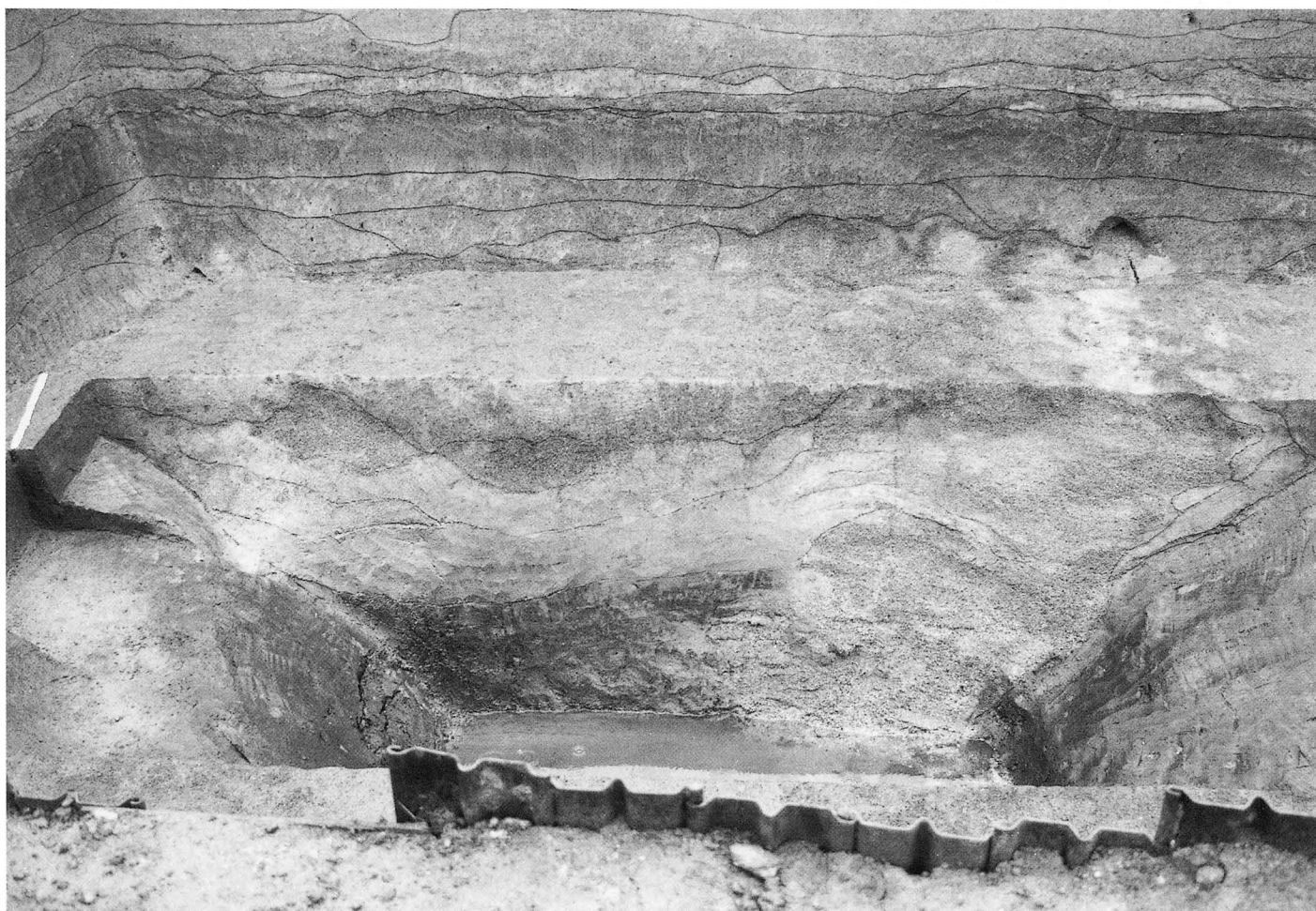
1. C区 第5遺構面全景（北より）



2. C区 第5遺構面全景（南より）



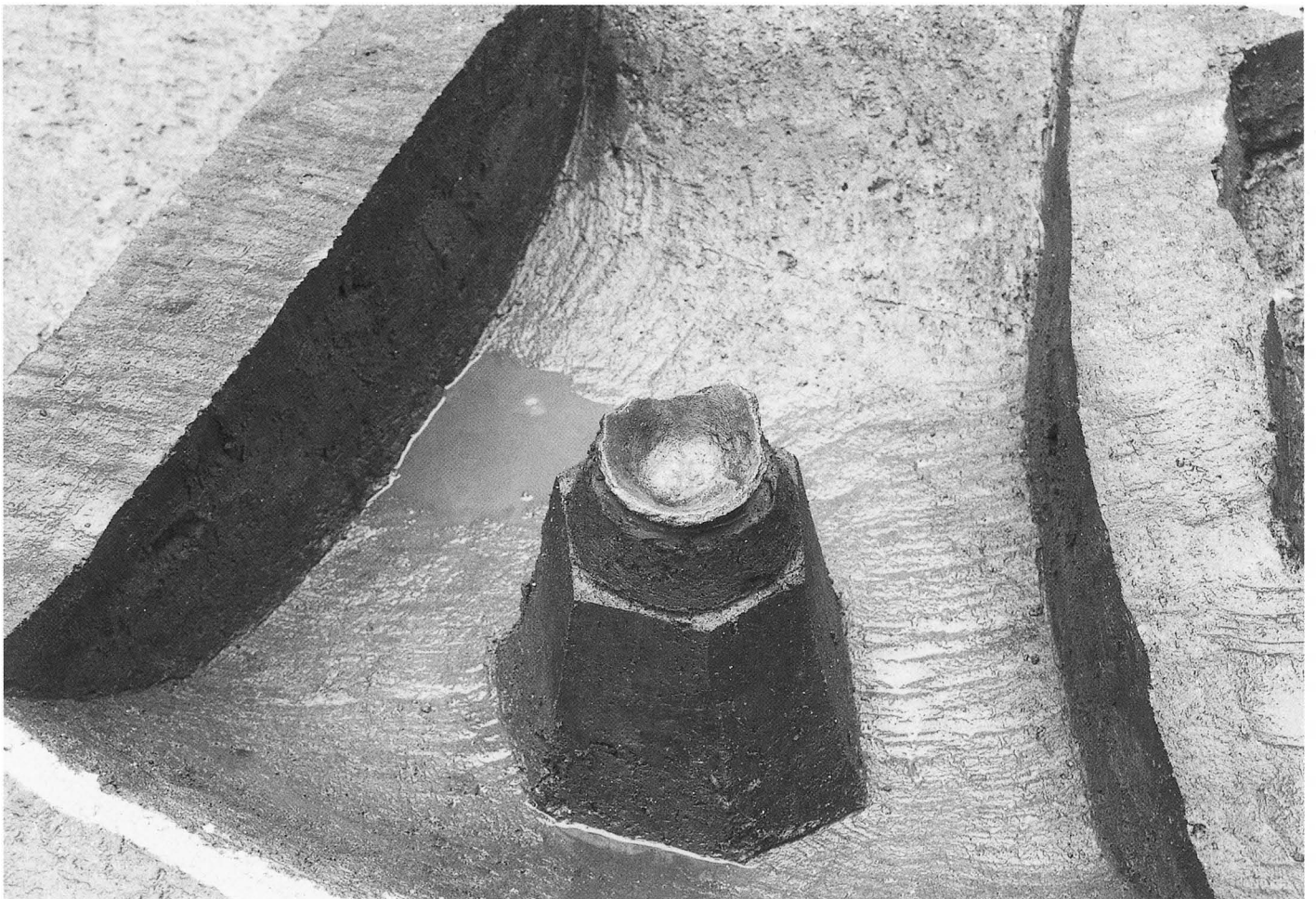
1. C区 NR-C501 (北より)



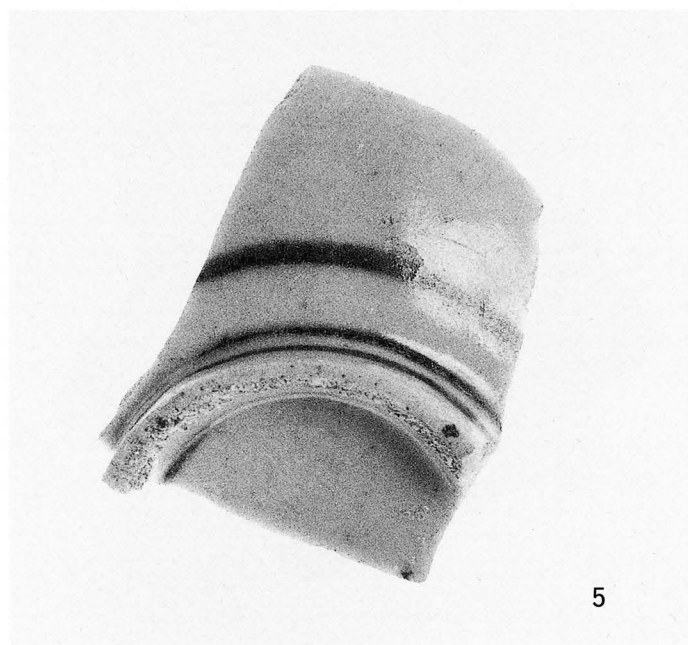
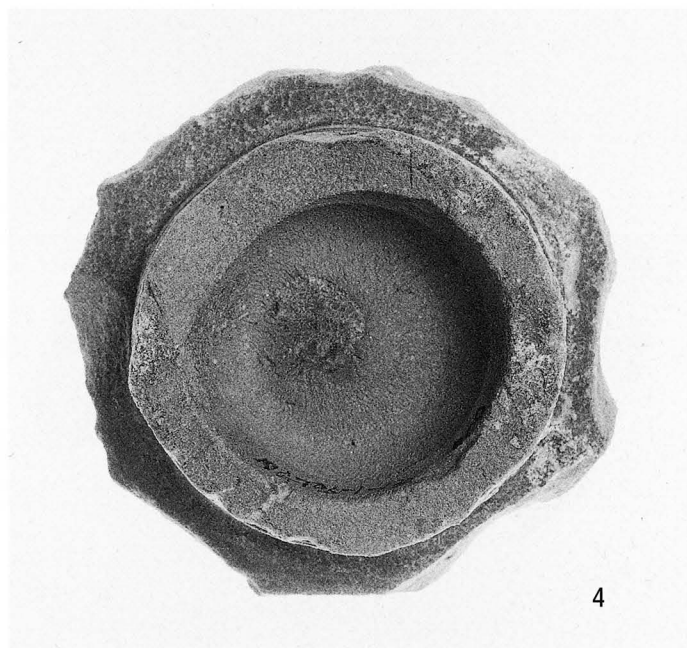
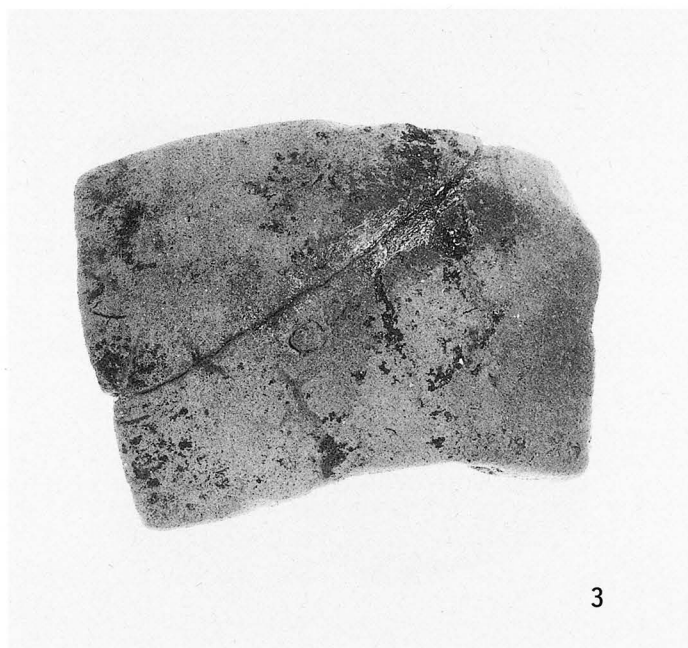
2. C区 NR-C501断面

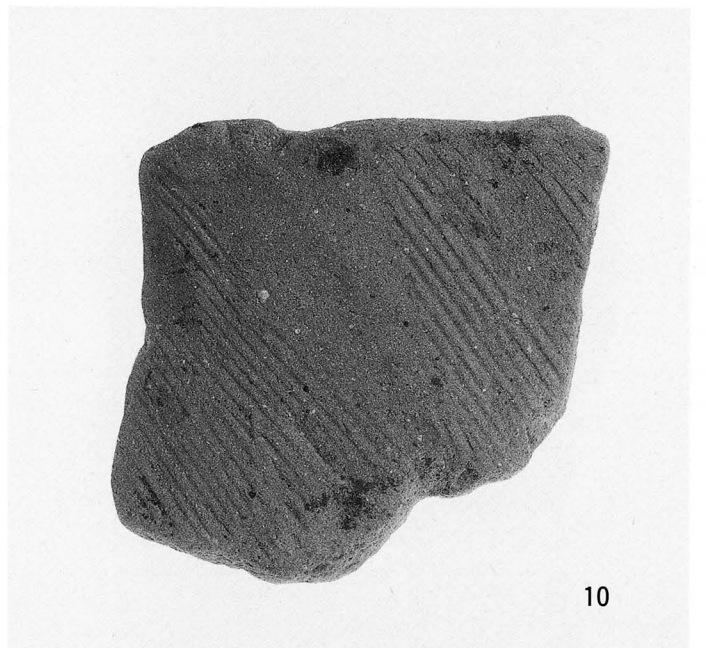
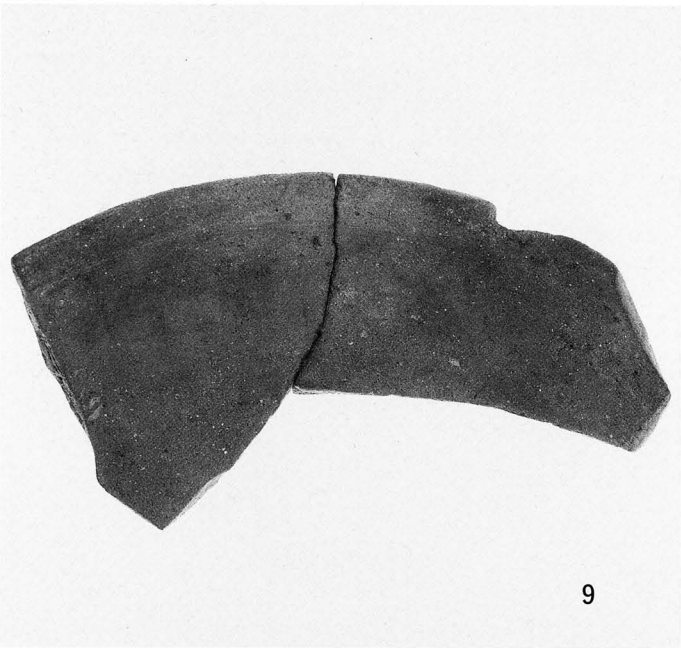
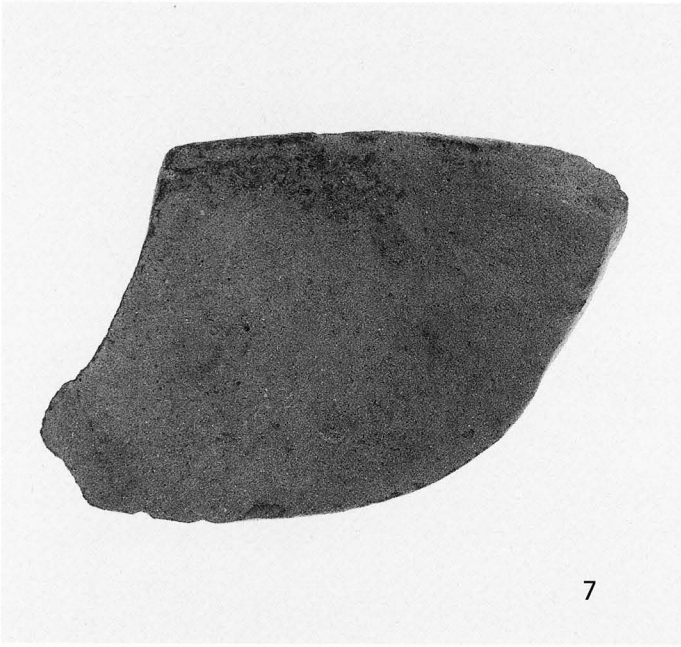


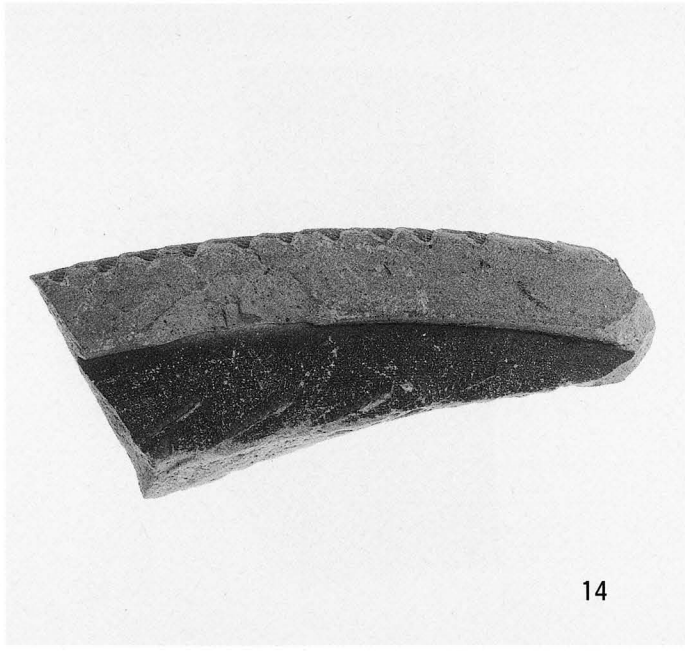
1. C区 SK-C501 (北より)



2. C区 SK-C501遺物出土状況 (北より)



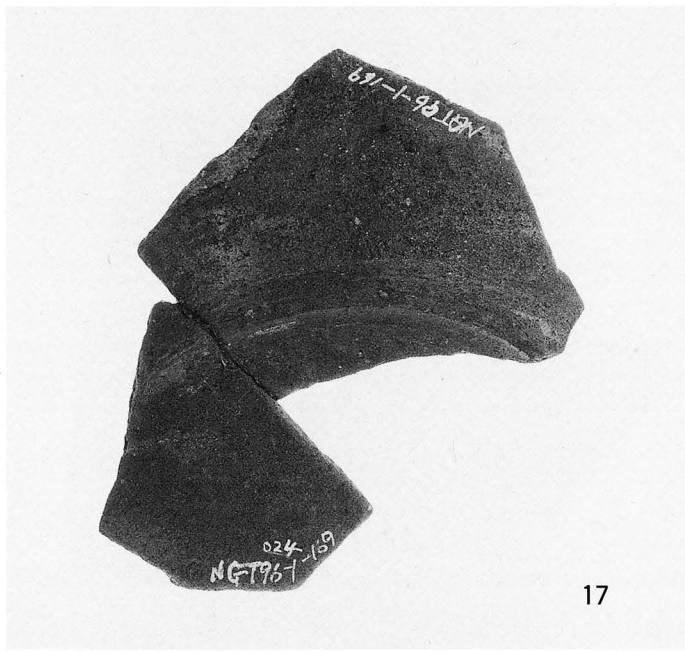




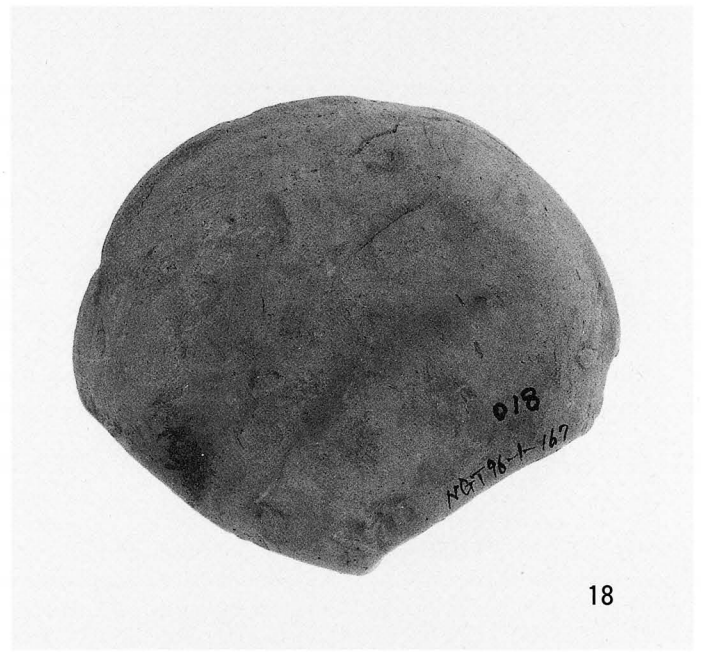
14



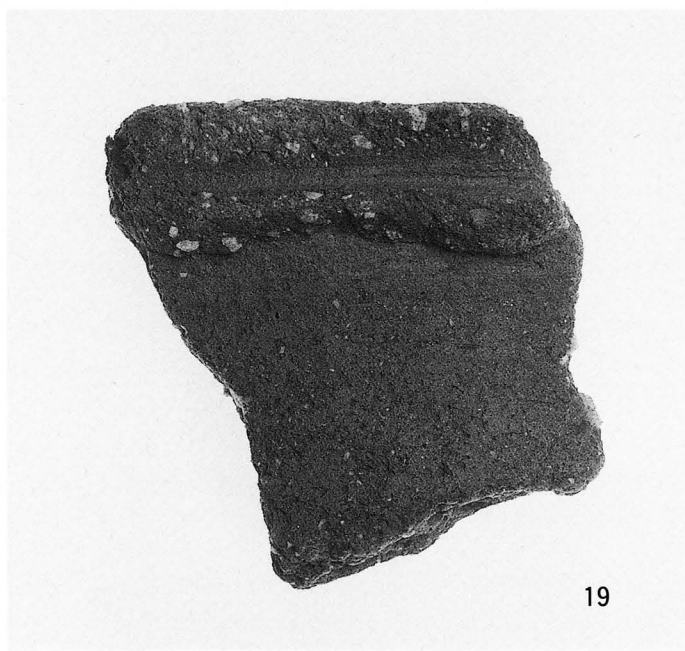
15



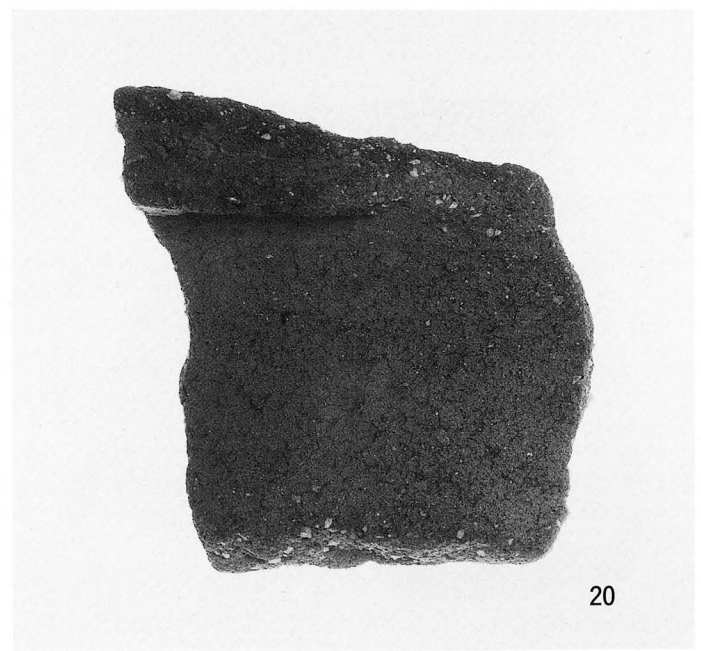
17



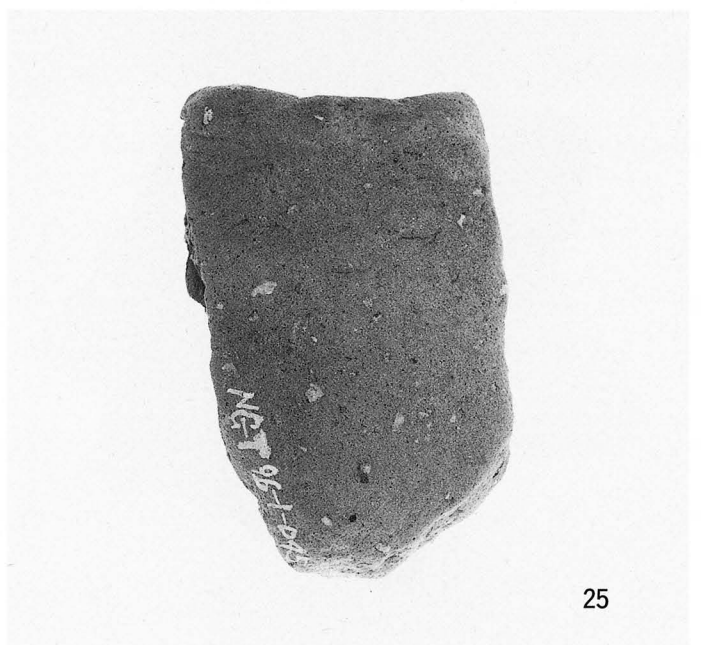
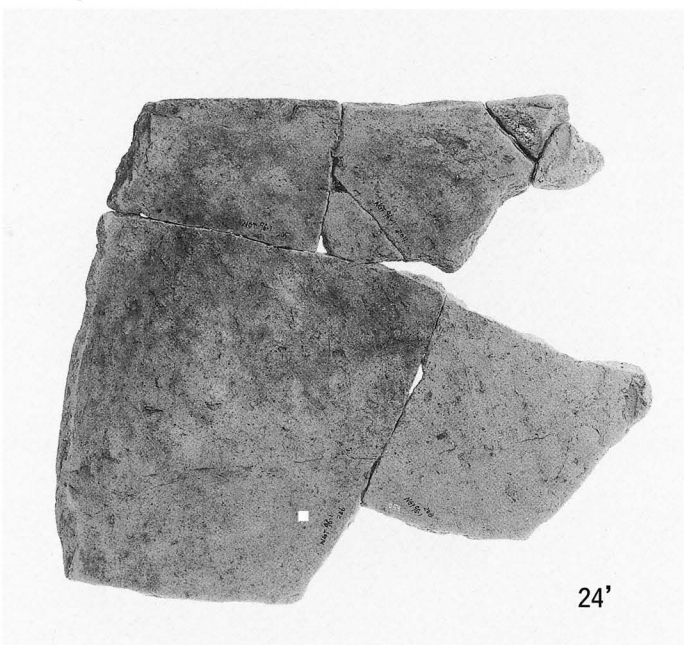
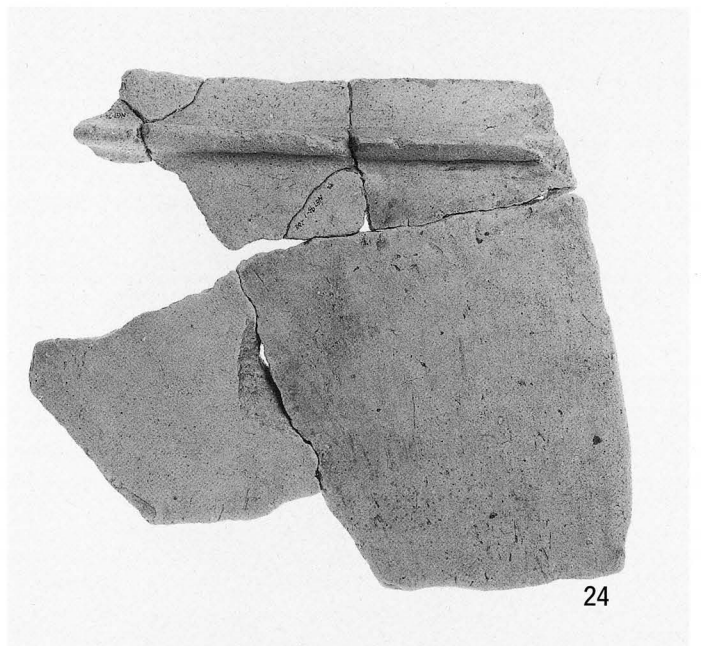
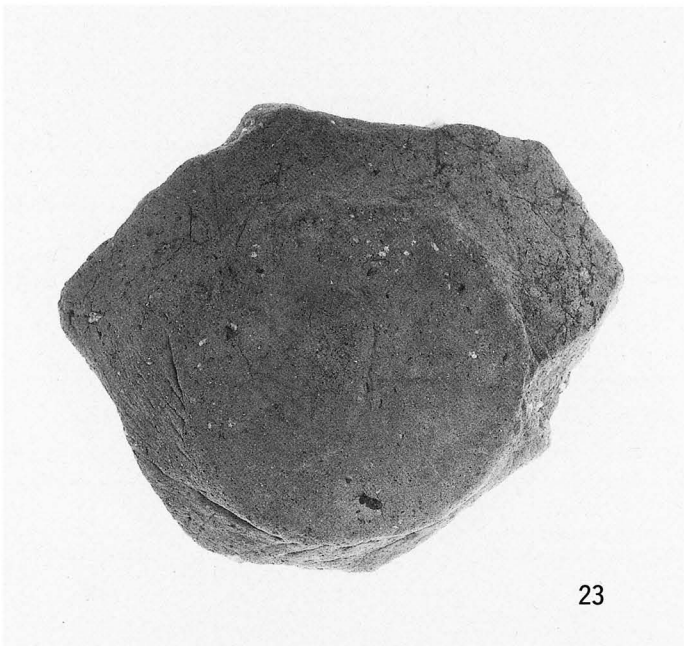
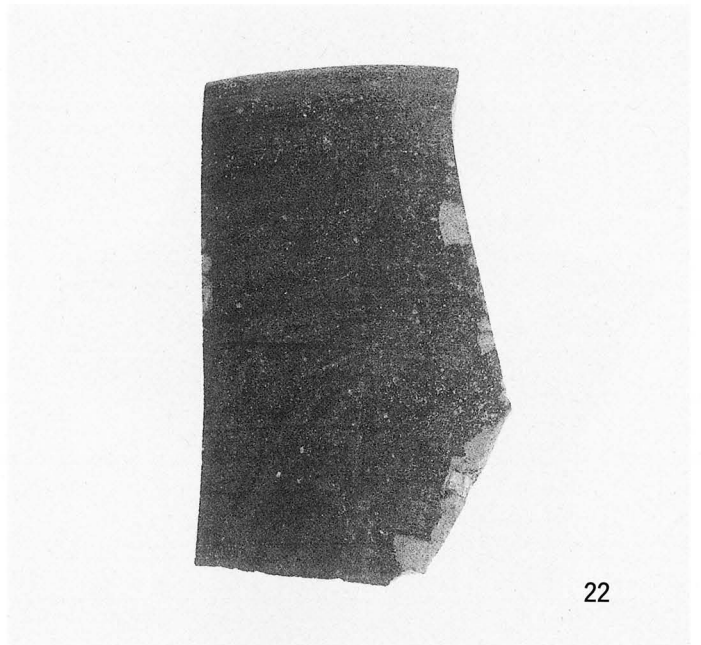
18

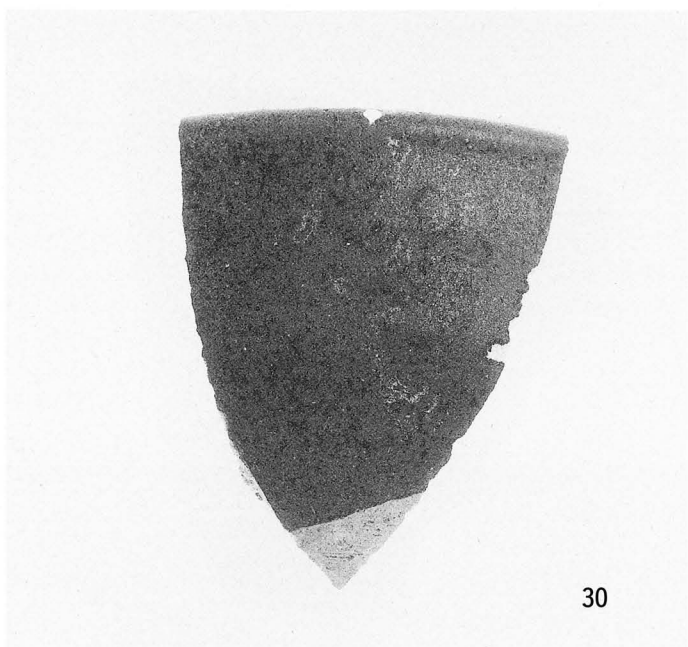
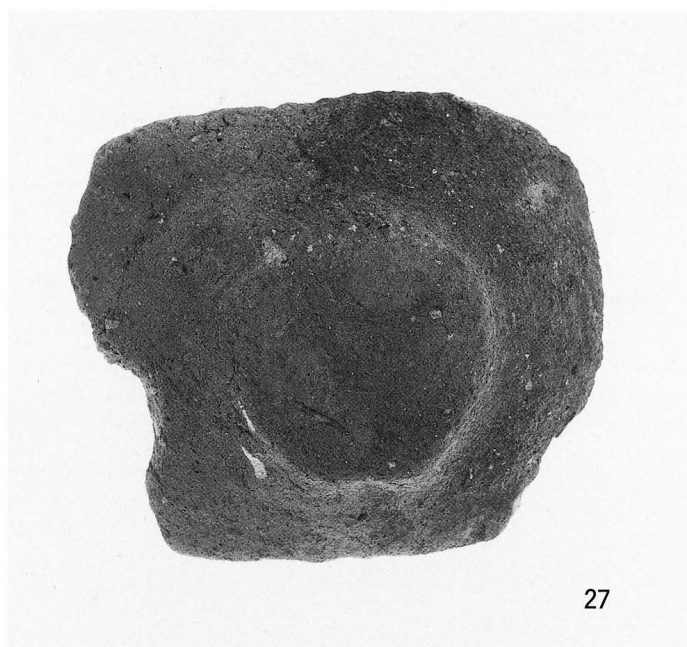
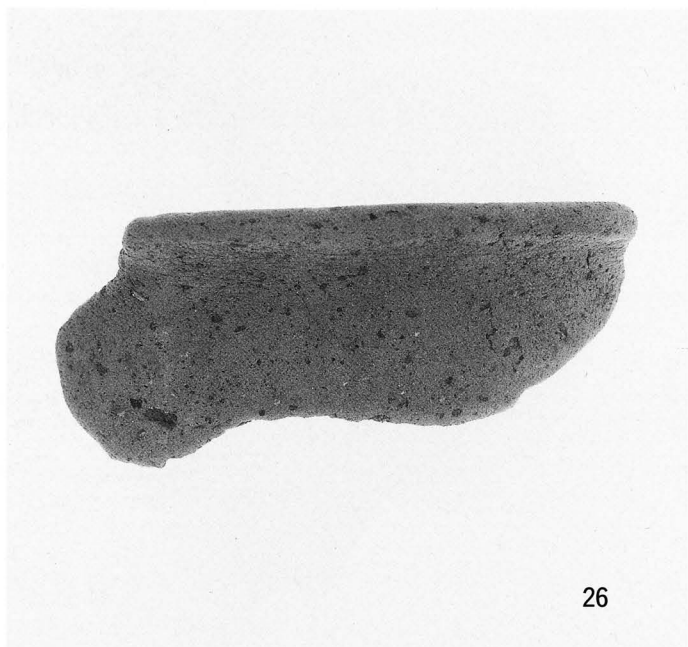


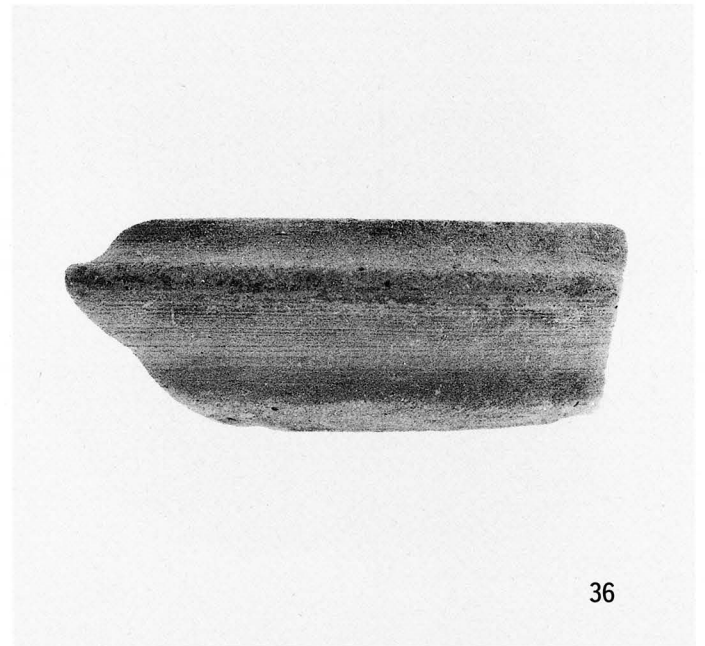
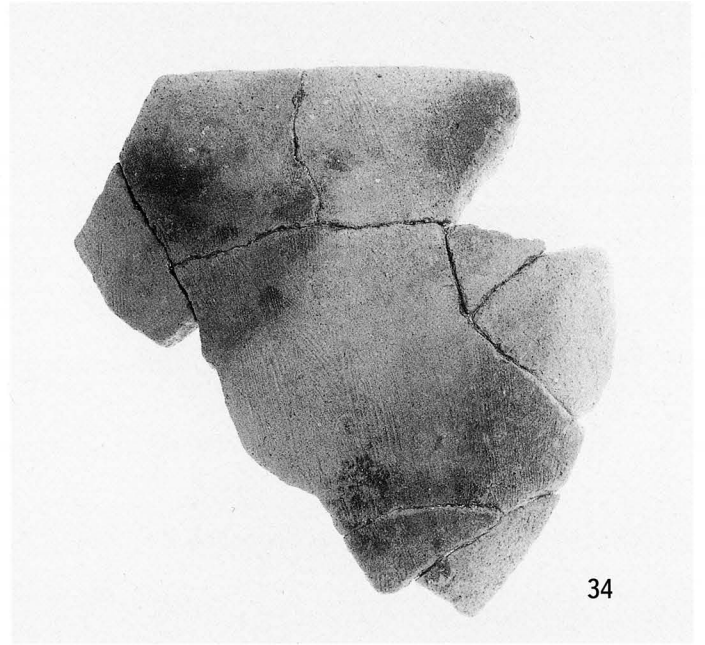
19

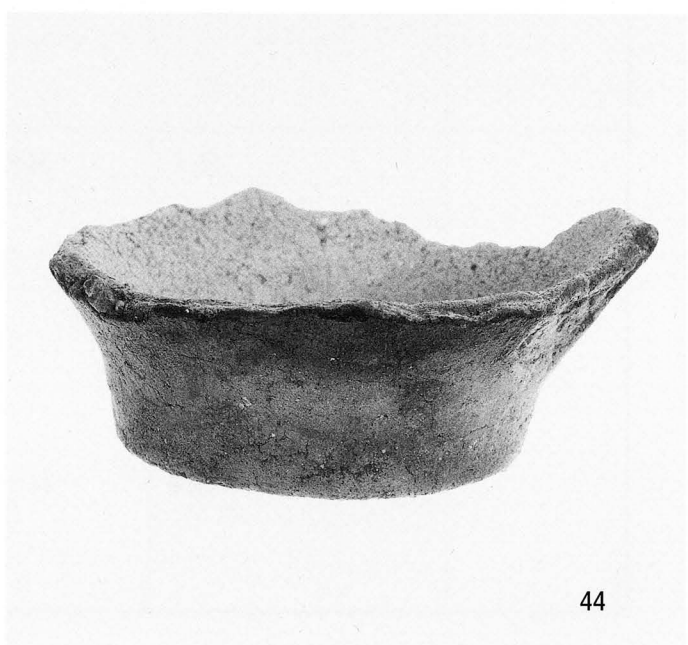
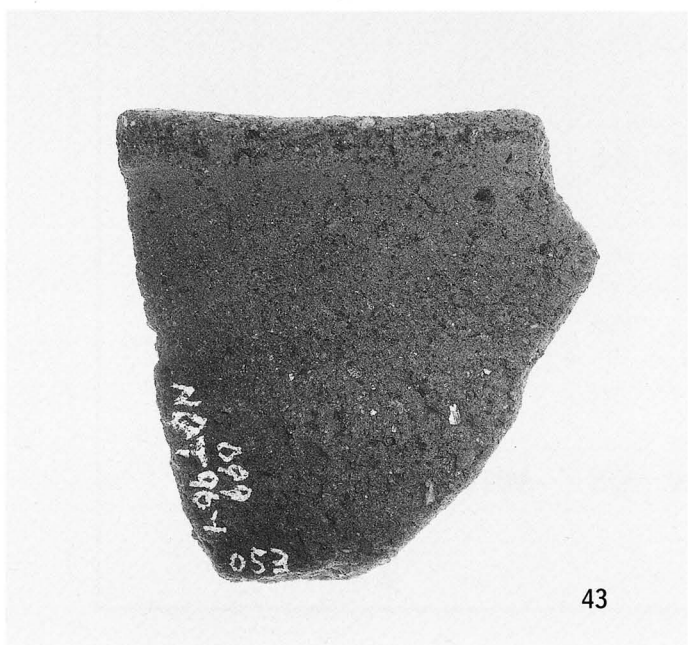
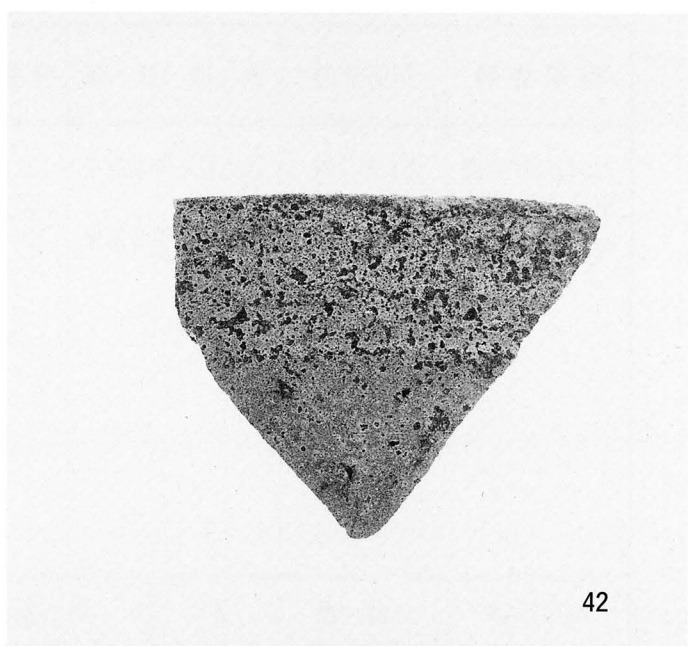
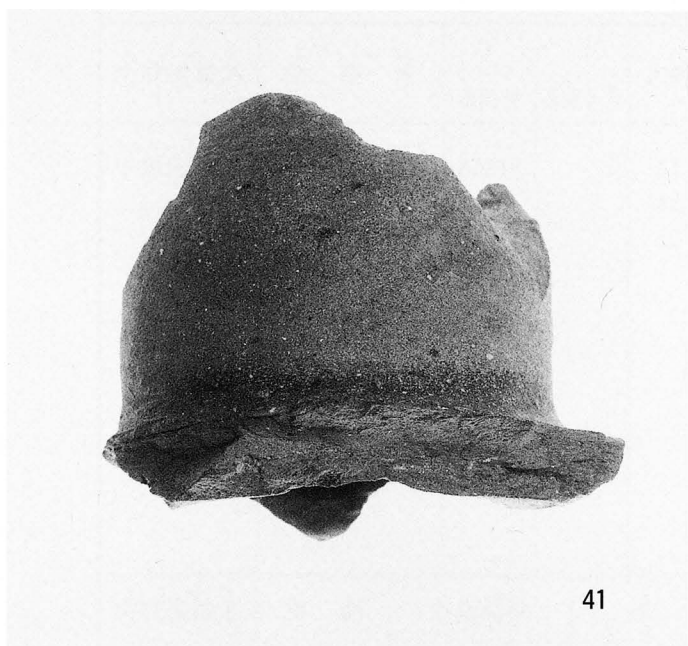
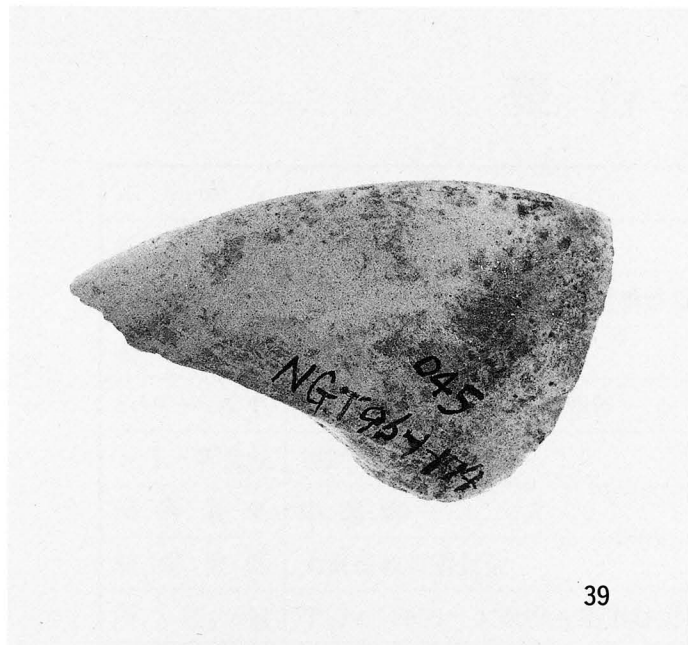


20









報 告 書 抄 録

ふりがな	なかがいといせき							
書名	中垣内遺跡							
副書名	関西電力株式会社架空送電線鉄塔〔No.256〕建替えに伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第25集							
編著者名	中達健一							
編集機関	大東市教育委員会							
所在地	〒574 - 8555 大阪府大東市谷川1 - 1 - 1 TEL 072 - 872 - 2181							
発行年月日	平成18年(2006)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかがいといせき 中垣内遺跡	おおさかふだいとうし 大阪府大東市 なかがいと 中垣内	27218	4	34° 42' 10"	135° 38' 42"	平成8年9月25日) 平成9年2月25日	191.79㎡	関西電力株式会社架空送電線鉄塔〔No.256〕建替え
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構		主な遺物		特記事項	
なかがいといせき 中垣内遺跡	集落	縄文時代			土器			
		弥生時代	土坑、自然流路		土器			
		古墳時代	水田		土師器、須恵器			
		中世以降	鋤溝、溝、土坑		磁器、瓦器、土師器			

大東市埋蔵文化財調査報告第25集

印刷物番号

17-74

大東市埋蔵文化財調査報告第25集

中 垣 内 遺 跡

－関西電力株式会社架空送電線鉄塔〔No.256〕建替えに伴う発掘調査－

2006年3月31日発行

編集・発行 大東市教育委員会

〒574-8555 大東市谷川1丁目1番1号

TEL. 072-872-2181

印刷・製本 株式会社ミラテック

〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番9号

TEL. 06-6354-3081

